

**市立高等学校改革推進計画
第2次計画**

令和2年2月

川崎市教育委員会

【目次】

1	第2次計画策定に向けて	1
(1)	はじめに	1
(2)	高校教育を取り巻く状況	1
(3)	長期保全計画の策定	2
①	長期保全計画に基づく取組内容	3
②	市立高津高等学校における再生整備	3
2	第1次計画の概要及び取組状況	4
(1)	全日制課程	4
①	川崎高等学校	4
②	幸高等学校（商業高等学校）	5
③	川崎総合科学高等学校	7
④	橘高等学校	7
⑤	高津高等学校	7
(2)	定時制課程	7
①	川崎高等学校	7
②	幸高等学校（商業高等学校）	9
③	川崎総合科学高等学校	9
④	橘高等学校	10
⑤	高津高等学校	11
3	第2次計画策定に向けた基本的な考え方	12
(1)	新しい時代に求められる資質・能力の育成	12
(2)	振興計画による取組の推進	12
(3)	計画の取組期間	12
4	主な課題と課題解決に向けた考え方	12
(1)	全日制課程 普通科	12
①	普通科教育について	12
②	中高一貫教育校について	13
(2)	全日制課程 専門学科	14
①	専門教育について	14
②	専門学科の情報発信について	14
(3)	定時制課程	14
①	定時制自立支援について	14
②	定時制における学びについて	15

5	第2次計画の取組内容	16
(1)	全日制課程 普通科	16
①	魅力ある普通科教育の推進	16
②	中高一貫教育校の充実	16
(2)	全日制課程 専門学科	17
①	進路実現を目指した専門教育	17
②	特色ある専門学科の情報発信	18
(3)	定時制課程	18
①	定時制生徒自立支援の充実	18
②	定時制における学びの充実	18
6	市立高等学校の再編等の方針（イメージ図）	20
7	計画のスケジュール	21
	【参考資料】	22
(1)	川崎市内公立高等学校	22
(2)	川崎市内公立中学校の卒業生数及び卒業予定者数の推計	23
(3)	中学校卒業生の動向・地域別公立中学校卒業予定者数	23
(4)	川崎市内公立中学校の卒業生の進路状況	24
(5)	川崎市立高等学校の入学選抜における定員・受検者数・倍率	25
①	全日制課程	25
②	定時制課程	28
(6)	川崎市立高等学校の中途退学者数と中途退学率	30
(7)	川崎市立高等学校の卒業生の進路状況	31
(8)	生徒へのアンケート結果	33

1 第2次計画策定に向けて

(1) はじめに

本市の「市立高等学校改革推進計画 第1次計画（平成19年7月）」（以下、第1次計画という。）は、社会状況や生徒の変化に柔軟に応え、市立高等学校の充実・発展を目指す「川崎市立高等学校教育振興計画（平成15年5月）」（以下、振興計画という。）において示された実施計画の取組内容「生徒の可能性を伸ばすための教育内容や教育方法の充実」、「開かれた高等学校づくりの推進」、「新しい視点による学校・学科・学系の創造」、「入学者選抜方法および通学区域（学区）などの検討」、「生徒の意欲的な活動を支援する条件づくり」のうち、主に「新しい視点による学校・学科・学系の創造」を具体的に推進するため、「かわさき教育プラン」、「川崎市新総合計画」との整合を図りながら策定いたしました。

この第1次計画においては、高津高等学校の改築に併せて「市立高等学校改革推進計画 第2次計画」（以下、第2次計画という。）を策定する予定としていましたが、社会状況の変化に対応するとともに、振興計画で示された他の取組内容の推進を図るため、この度、第2次計画を策定することといたしました。

グローバル化や情報化の進展などにより世界全体が急速に変化する中で、今までに経験したことのない課題を抱え、将来を見通すことも困難な状況となっています。そのため、未来の我が国を支える若者一人ひとりが、それぞれの能力・個性を开花させ人生を豊かにするとともに、自立し、最大限能力を発揮しながら、社会に参画・貢献していくことが強く求められています。

各校が特色ある教育を進めるため、教育課程の編成等を通じ、多様な学習ニーズに対応するとともに、確かな学力を育み、生徒一人ひとりの進路希望の実現を目指し、高校教育を取り巻く様々な環境の変化を踏まえながら、更に魅力ある市立高等学校を創り出してまいります。

(2) 高校教育を取り巻く状況

平成26年6月に中央教育審議会初等中等教育分科会高等学校教育部会において、高等学校教育の現状と課題や今後の高等学校教育の在り方等についての「審議のまとめ」が取りまとめられました。

この「審議のまとめ」では、社会で生きていくために必要となる力を共通して身に付ける「共通性の確保」と、生徒一人ひとりの進路に応じた多様な可能性を伸ばす「多様性への対応」を軸にしながら、高等学校教育の質の確保・向上を目指すこととしています。

「共通性の確保」については、義務教育段階の学習内容の確実な定着を図る学び直しの充実や、「キャリア・パスポート（仮称）」等を活用した自らのキャリア形成を見直し振り返る自己評価の充実、「高校生のための学びの基礎診断」等を活用した高校生に求められる基礎学力の確実な習得等を図っていく必要があります。

「多様化への対応」については、キャリア教育・職業教育の推進や、優れた才能や個性を伸ばす学習の機会の提供、グローバル人材の育成、ICT教育の推進等を行っていくことが求められています。特に定時制課程においては、きめ細やかに対応するための学び直しを支える体制、日々の生活指導や教育相談、将来を見通した進路実現をサポートする体制等、学校の内外を問わず、様々な形で生徒や保護者への支援等を

充実していく必要があります。

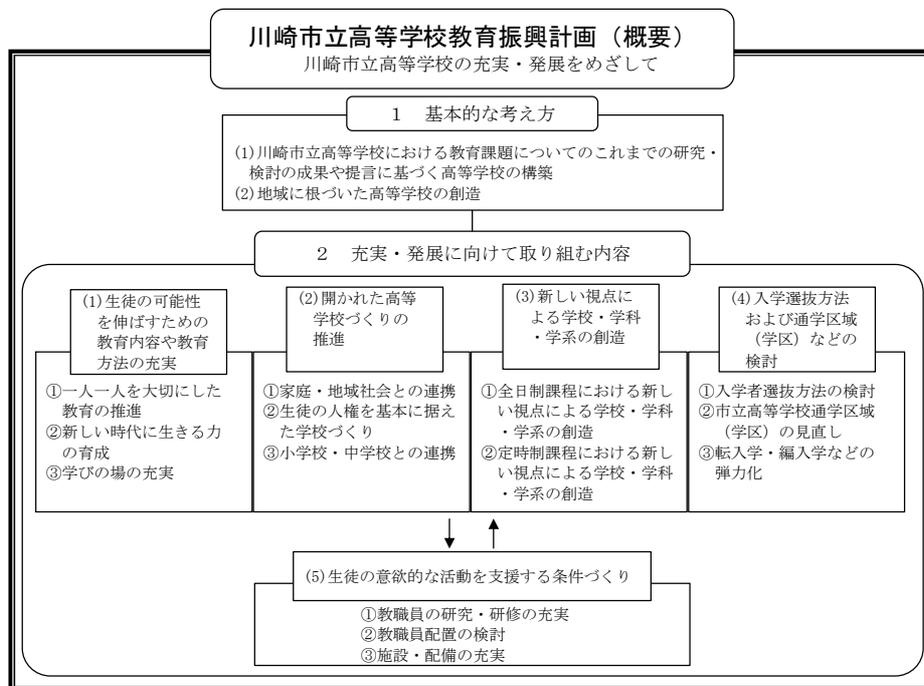
令和元年5月に示された、教育再生実行会議による第11次提言では、これからの高等学校は、Society5.0を生き抜くための力（①文章や情報を正確に読み解き、対話する力、②科学的に思考・吟味し活用する力、③価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力等）や生徒一人ひとりが能動的に学ぶ姿勢を共通的に身に付けさせるとともに、将来、世界を牽引する研究者や幅広い分野で新しい価値を提供できる人材となるための力を育むことが求められていると示されています。その力の育成に向け、「総合的な探究の時間」や「理数探究」等における問題発見・解決的な学習活動の充実を図る必要があるとされています。

また、平成27年に国連において採択された持続可能な開発のための2030アジェンダを受けて、国は「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」を策定しました。川崎市では、平成31年2月に「川崎市持続可能な開発目標（SDGs）推進方針」を策定し、SDGsの達成に寄与する取組を進める上での考え方が取りまとめられました。

更に、これからの学びにとって、ICTはマストアイテムであり、学校にとってもICT環境は新たな学びの基盤として不可欠なもので、将来的には「一人1台専用」の学習者用コンピュータが整備されることが望まれ、BYOD方式（Bring Your Own Device：自分のPC等を持ち込む）を活用するなどICT環境を整えることは、関係者が一丸となって対応すべき緊急の課題とされています。

定時制については、近年では不登校経験者や中途退学経験者、特別な支援を要する生徒、帰国生徒・外国籍生徒、社会人など、多様な背景をもつ生徒が多く在籍しており、定時制教育を考える上で時代の変化・役割の変化に対応することが求められることが示されています。

本市としても、これらを踏まえた第2次計画を検討していく必要があります。



(3) 長期保全計画の策定

平成25年時点で、本市の学校施設は、非木造施設約130万平方メートルのうち、築年数が20年以上の施設は、約90万平方メートルと全体の7割を占めており、老朽化

が進んでいました。こうした学校施設のストックが偏在している状況の中で、厳しい財政状況において、高まる改築の需要の抑制を図る必要があり、また、新学習指導要領等に基づく多様な学習内容や形態に対応した、高機能かつ多機能な施設環境の整備に加え、防災対策、バリアフリー化、普通教室やトイレ等の子どもたちの学習・生活空間の快適化、環境負荷の低減等のさまざまな配慮が学校施設には求められていました。

このため、改修による老朽化対策、教育環境の質的向上、環境対策を行う再生整備と予防保全を基本とし、長寿命化の推進による財政支出の縮減と平準化を図ることを目的として、平成 26 年 3 月に「学校施設長期保全計画」を策定しました。

高等学校におきましても、この計画に基づき取組を進めていくことになりました。

①長期保全計画に基づく取組内容

○目標耐用年数：80 年に設定します。

○グルーピング：学校施設評価の結果、築年数が多くなると評価値が低くなることから、平成 25 年 4 月 1 日を基準として校舎と体育館を築年数に応じて 3 グループに分類します。

A グループ：築 20 年以下（校舎 39 校・体育館 37 校）

B グループ：築 21 年～30 年（校舎 36 校・体育館 90 校）

C グループ：築 31 年以上（校舎 98 校・体育館 48 校）

市立高等学校におけるグルーピング

分類	学校名(校舎)	学校名(体育館)	
Aグループ	川崎高等学校 橘高等学校	川崎高等学校 橘高等学校 1	
Bグループ	幸高等学校 川崎総合科学高等学校	幸高等学校 川崎総合科学高等学校 橘高等学校 2	※橘高等学校及び高津高等学校は体育館が2棟あります。
Cグループ	高津高等学校	高津高等学校 1・2	

同計画に基づき、高等学校についても、当面は改築を行わず、改修による再生整備と予防保全を基本として長寿命化を図ることとなりました。

②市立高津高等学校における再生整備

高津高等学校については、平成 30 年度から再生整備工事に着手しており、平成 33 年度（令和 3 年度）に完成を予定しています。

○主な整備内容

- ・内装改修(教室、廊下、管理諸室 等)
- ・トイレ改修
- ・エレベータ設置 等

※屋上防水回収（H27）、外壁改修（H29～H30）実施済

第 1 次計画において、第 2 次計画は高津高等学校の改築に併せた計画とされていましたが、この長期保全計画に基づく取組により、第 2 次計画は高津高等学校の改築や大規模な改修は行わずに策定いたします。

2 第1次計画の概要及び取組状況

(1) 全日制課程

①川崎高等学校

ア. 第1次計画における位置付け

川崎らしい特色をもつ併設型の中高一貫教育校とし、学区は附属中学校・高等学校普通科とも全市1学区とする。学校全体の活力と新鮮さにつながるというメリットを生かすため、学校規模は、中学校は3学級、高等学校は4学級とし、高等学校進学時に1学級分の生徒を新たに受け入れることとし、具体的な教育目標、学科・学系の設置、教育課程の編成等について検討していく。

また、川崎高等学校に従来から設置され、高い評価を受けている生活科学科、福祉科については存続し、高等学校から生徒を受け入れることとする。

イ. 第1次計画における取組状況

川崎高等学校の学校教育目標「こころ豊かな人になろう」を継承し、人権感覚豊かで、高い志をもって学び続け、国際都市川崎をリードするたくましい人材の育成を目指し、平成26年度に中高一貫教育校として、川崎高等学校附属中学校を開校しました。

体系的・継続的な教育活動の展開のため、6年間で3つのステージ[ステージ1:定着期(中学1・2年)、ステージ2:充実期(中学3年・高校1年)、ステージ3:発展期(高校2・3年)]に分けています。

学習面では、生徒の進路実現に向けた教育課程の編成や選択科目の設置を行うとともに、中高の円滑な接続ができるよう、中学3年の国語と英語において高等学校の教員と中学校の教員とのT・T(チームティーチング)による授業を展開しています。

附属中学校では「体験・探究」、「ICT活用」、「英語・国際理解」の3つのキーワードをあげており、それぞれ高等学校へ継続しています。

「体験・探究」については、「総合的な学習の時間」で、ゼミ形式による課題解決型の授業を展開し、「かわさきよいまちプロジェクト」として川崎市の現状を調査するとともに課題を自ら発見し、その課題解決に向け、主体的かつ協働的に探究する活動を行っています。

「ICT活用」については、高等学校においてもBYOD方式によるタブレットを活用した授業やeラーニングシステムを用いた自学自習に取り組んでいます。

「英語・国際理解」については、希望者による2週間のオーストラリア語学研修と2年生で全員が参加するマレーシア・シンガポールへの海外修学旅行を実施しました。修学旅行では、専門学科はその学科の特徴を生かした訪問や体験学習を、普通科は現地大学生との英語でのディスカッション等を実施しました。

ウ. 取組における具体的な成果・課題等

平成30年度に附属中学校第1期生(平成30年度高校2年生)及び第2期生(高校1年生)に対してアンケートを実施しました。(回答数:1期生では附属中からの進学生徒(中入生)108名、高等学校からの入学生徒(高入生)33名、2期生では中入生107名)

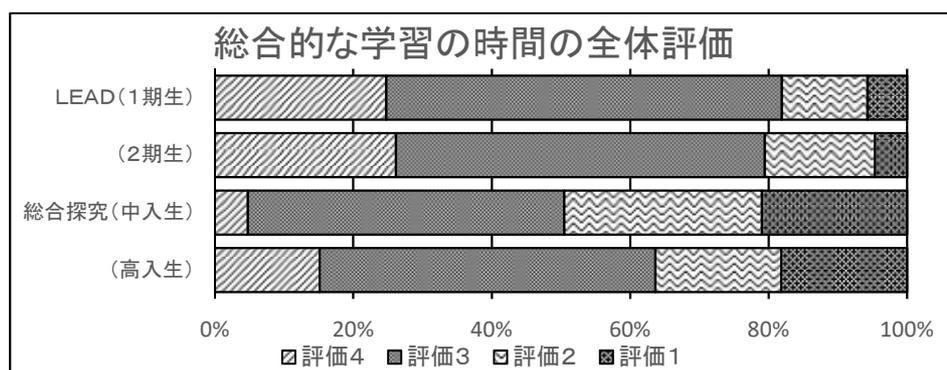
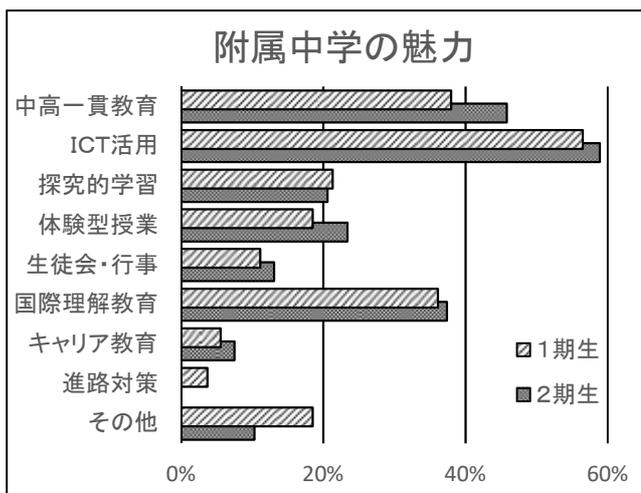
(表 1)

生徒が感じた附属中学校の魅力については、1、2期生ともに「ICT活用」や「中高一貫教育」、「国際理解教育」と回答した生徒が非常に多く、学校が掲げている教育理念と一致しました。(表1：詳細は34ページQ2)

また、総合的な学習の時間について附属中学校、高等学校、中入生、高入生ごとに4段階の評価(4：有意義であった～1：有意義ではなかった)でアンケートを実施したところ、LEADタイム(附属中学校での総合的な学習の時間の取組)では、肯定的な回答の割合が1、2期生ともに約8割と非常に高く、生徒の学習に対する満足度の高さが伺えました。

しかし、総合探究(高等学校での総合的な学習の時間の取組)では、中入生の学習に対する満足度においてLEADタイムのような高い結果が得られませんでした。これは、問題発見や解決的な学習活動の充実が図られておらず、学びに深まりがなかったのではないかと考えます。よって、更に6年間の学習を系統的に発展させることができるよう工夫していく必要があります。

一方、高入生における総合探究の学習に対する満足度は6割を超え、中入生より高い結果となりました。これは、高入生がプレゼンテーションや情報処理等の高いスキルをもった中入生とともに学習を進めたことで、高入生の学びが深まり、学習に対する意欲が向上した結果だと思われます。(表2：詳細は37ページQ6、38ページQ7、40ページQ11)



高等学校での総合的な学習の時間の取組などに見られる高入生と中入生との満足度の差につきましては、今後も検討・改善を行っていく必要があります。

②幸高等学校(商業高等学校)

ア. 第1次計画における位置付け

これまでに設置されているそれぞれの学科(商業科・情報処理科・国際ビジネス科)においては、全県的な普通科志向の高まりの中で志願者数が減少傾向にある。このため学科の改編等について考えていく必要がある。

例えば、新たな商業系の学科に統合し、1年次で商業科の必修科目を学び、基礎学力を身に付け、2年次からコースを選択し、コース別の必修科目や選択科目を通して興味ある分野を多く学ぶことで生徒の学習ニーズや希望進路に沿った学習を深めていく方法等が考えられる。

また、川崎高等学校の中高一貫教育校への転換により、南部地域において高校進学時に選択できる普通科が減少することや普通科志向が高い状況から、普通科志望の生徒のニーズに応えるため、商業科の改編に伴い普通科の設置も検討していく。

イ. 第1次計画における取組状況

生徒の個性を踏まえ、多様な進路希望の実現に向けた教育課程を編成する必要性に伴い、キャリアプランニングやビジネススキルの育成を目指し、平成21年度までの商業科3学級、情報処理科2学級、国際ビジネス科1学級の募集を、平成22年度からビジネス教養科1科の6学級募集としました。

1年次では基礎的な学習をもとに一般教養を身に付け、2年次以降に専門科目を中心に「知識と技術の習得」、「ビジネスの諸活動を遂行するための望ましい心構えや理念を身に付ける」、「ビジネスの諸活動を遂行し、経済社会の発展に寄与する能力と態度を育てる」ことをねらいとしました。3年次での「課題研究」では、商業に関する既習事項をもとに、問題解決能力や自発的、創造的な学習態度の育成を目指すこととしました。

また、多様な進路希望に対応するため、高度な資格取得も視野にいたした系統的な科目選択が可能となる教育課程を編成しました。

平成29年度より普通科を2学級設置し、ビジネス教養科の募集を4学級とし、校名を「幸高等学校」と変更しました。

ウ. 取組における具体的な成果・課題等

これまでビジネス教養科で実施していた「中学生のための体験学習」を、平成29年度からの普通科開設に伴い、平成28年度から普通科も含めて実施しました。平成28年度については普通科開設の認知度が低く、参加者も少なかったのですが、学校の広報活動等の成果もあり、平成29年度では普通科の参加者が急増しました。78名募集の普通科で260名を超える参加者があるなど、新しい普通科開設に対する中学生の興味が高いことが伺えました。

「体験学習」に参加した生徒からは、「普通科のつもりで参加したが、商業の説明を聞き、ビジネス教養科にも興味をもった。」等の意見も聞かれ、平成30年度では2つの学科とも260名を超える参加者があるなど、相乗効果が得られました。「体験学習」等での説明により、普通科とビジネス教養科のそれぞれの特性を理解することで中学生の幸高等学校への進学に対する意識が高まったと考えられます。

しかし、平成30年度入学者選抜において1.25倍であった受検者倍率が平成31年度入学者選抜では、定員割れが生じました。高等学校進学希望者の専門学科離れは全国的な課題であり、普通科と専門学科が併設されていることを有効的に活用するような教育課程や学習活動等について更なる検討が必要です。

③川崎総合科学高等学校

ア. 第1次計画における位置付け
従来どおりとする。

イ. 第1次計画における取組状況

工業科5学科と理数科1学科の計6学科で構成された専門学科のみの学校であり、特に情報工学科は県内唯一の情報系専門学科、科学科は県内で2校のみの理数科の学科です。各学科ともそれぞれの特徴を生かし、専門分野の生徒を育成し、就職・進学のどちらにでも対応できる専門学科の高等学校として教育活動を展開しています。

④橘高等学校

ア. 第1次計画における位置付け
従来どおりとする。

イ. 第1次計画における取組状況

普通科5学級、スポーツ科1学級、国際科1学級の計7学級で構成された学校であり、特徴のある教育課程のもとで教育活動を展開しています。

⑤高津高等学校

ア. 第1次計画における位置付け
従来どおりとする。

イ. 第1次計画における取組状況

市立高等学校で唯一の普通科のみの学校であり、2学年から類型制をとり、文系と理系に分かれ、選択科目を多く取り入れた教育課程の編成を行っています。

また、平成31年度入学生からBYOD方式による一人1台のPCを活用した教育活動を展開しています。

(2) 定時制課程

①川崎高等学校

ア. 第1次計画における位置付け

昼間部、夜間部の二部制（普通科）とする。また、これまでの全日制課程、定時制課程が教室等を共用していることで受ける制約（例えば全日制課程の部活動と定時制課程の授業との重なり）の解消に向けて、定時制課程専用教室を設けることとする。

イ. 第1次計画における取組状況

平成26年度から普通科昼間部を設置し、これまでの夜間部のみの4学級から普通科昼間部2学級、普通科夜間部2学級の編成としました。校舎の改築に伴い、全日制と定時制でエリアを分け、それぞれの専用教室や複数の体育施設等を設置することで、昼間部の活動を可能としました。

ウ. 取組における具体的な成果・課題等

多様な学習ニーズに対応した多部制定時制として、確かな学力を育み、生徒一人ひとりの進路希望の実現と社会的自立を目指した授業を展開しています。

昼間部と夜間部の生徒が交流できる時間を「Jタイム」として水曜日に設定し、学校行事や生徒会活動、講演会等を合同で実施しました。また連帯感をもてるよう体育祭や文化祭も合同で開催しました。

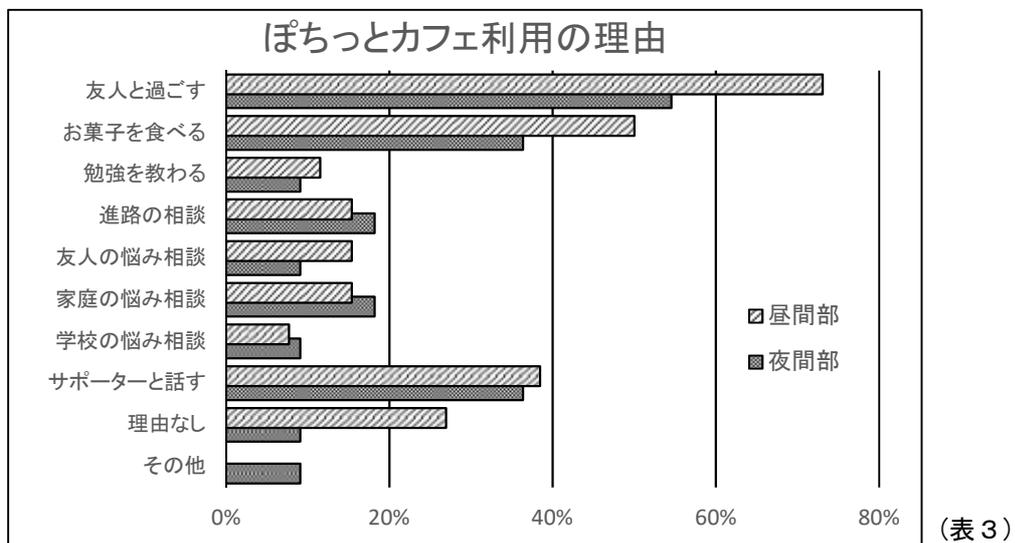
キャリア教育の推進に向け、キャリアガイダンス部が企画立案し、生徒が自己の在り方や生き方を見つめ、将来の社会的自立につながるよう指導と支援を行っています。

平成 30 年 3 月卒業の定時制昼間部第 1 期生及び同期の定時制夜間部の生徒に対しそれぞれ平成 29 年度末にアンケートを実施しました。（回答数：昼間部 47 名、夜間部 25 名）

学校生活におけるアンケートの回答で「授業が合っている」や「授業が理解できる」の項目について、肯定的な回答の割合が昼間部・夜間部ともに 60%から 70%あり、生徒の満足度の高さが伺えました。（詳細は 44 ページQ 5）これは、定時制課程が生徒一人ひとりの実態やニーズに応じた学習内容を提供し、生徒が安心して学び続けられる教育課程を取り入れているからであると考えられます。

また、同じアンケートで「仲の良い友達がいる」、「先生の雰囲気がよい」や、入学後の変化についてのアンケートの回答で「友達との関係がよくなった」、「先生との関係がよくなった」の項目について、肯定的な回答の割合がとても高くなりました。（詳細は 44 ページQ 5、45 ページQ 6）これは、様々な悩みや、課題を抱えている生徒に対して、教員が寄り添った対応をしたり、友達と時間を共有したりすることで、よりよい人間関係を形成し、安心して学校生活を送ることができるようになったからだと考えられます。

進路希望については、進学や就職を希望する生徒の割合が、昼間部 85%、夜間部 80%と非常に高い結果となりました。（詳細は 47 ページQ 8）教員の「学び直し」や「個に応じたきめ細かな指導」への取組により、生徒の学習意欲が向上し、生徒一人ひとりの将来に対する目的意識が高まったと考えられます。



また、様々な課題をもつ定時制生徒の中途退学の防止と将来社会において自立した人材として成長していけるようにする支援を目的とし、平成 28 年度から定時制生徒自立支援事業のモデル校として展開している「ぼちっとカフェ」は、始業前と放課後、友人との憩いや学習、悩み相談の場とその利用は多岐に渡り、人とのつながりやふれあいを大切にする場、自分の居場所となっていることが伺えました。（表 3：詳細は 50 ページ Q11）

入学後の満足度において肯定的な回答の割合が、昼間部 82.6%、夜間部 68.0% と高いのは、教員が生徒一人ひとりの成長にしっかりと寄り添いながら、教育活動に取り組んでいる結果だと考えられます。これまでの勤労青少年や不登校の生徒等が学ぶ教育機関としての役割に加え、生徒の実態や多様な学習ニーズに柔軟に対応した結果であると考えられます。（詳細は 42 ページ Q 3）

②幸高等学校（商業高等学校）

ア. 第 1 次計画における位置付け

川崎高等学校に二部制の定時制課程を設置することに伴い廃止する。

イ. 第 1 次計画における取組状況

川崎高等学校の二部制定時制課程普通科の設置に伴い、平成 26 年度より普通科の募集を停止し、平成 29 年度より商業科を川崎総合科学高等学校の定時制課程へ移行しました。

③川崎総合科学高等学校

ア. 第 1 次計画における位置付け

商業高等学校の定時制課程の廃止に伴い、新たに商業科を設置する。

これまでに設置されている電気・電子科及び機械科については、志願者数が減少傾向にあることから、川崎市の産業界に必要とされる人材を育成できるような魅力ある工業系学科に改編することを検討する。

統合にあたっては、以下の項目を考慮していく。

- ・現在の川崎総合科学高等学校の施設設備を新たな魅力ある工業系学科で活用することができる。また、商業科で必要とされる専門的な学習にも対応が可能である。
- ・商業高等学校及び川崎総合科学高等学校はいずれも幸区内にあり、2校間の距離はおよそ 1.5km である。
- ・定時制課程に魅力ある商業科と工業系学科を設置することにより、新たな特色づくりが可能となる。
- ・それぞれの専門教科・科目を相互に履修ができるような工夫をすることで、新たな展開が期待できる。
- ・工業科と商業科が共存することで就職情報の幅を広げることができる。

イ. 第 1 次計画における取組状況

平成 26 年度にこれまでの工業系の 2 つの学科（電気・電子科、機械科）について、志願者数が減少傾向にあることも踏まえ、川崎市の産業界に必要とされる人

材を育成できるような魅力ある工業系学科となることを目指し、クリエイト工学科に統合し、1学級の編成としました。

統合にあたっては、川崎総合科学高等学校の施設設備を更に有効活用することができること、またクリエイト工学科に電気・電子コース、機械コースを設置し、従来の学習内容も選択履修できるよう考慮しました。

平成 29 年度に商業科を商業高等学校定時制から移行し、1学級の編成としました。

系統の異なる2つの学科の設置に伴い、普通教科の単位数や履修学年を統一し、指導の効率を図るとともに、確かな学力を身に付けるための学習活動や指導力の向上を目指し取り組みました。

ウ. 取組における具体的な成果・課題等

中学3年生の進路選択において、これまで工業系2科での迷いや不安については、クリエイト工学科に統合したことで一定程度解消されたと考えられます。

川崎総合科学高等学校の校舎に商業科専門の教室を設置しましたが、商業科の専門教育を行うために必要な施設・設備が十分ではなく、対応に工夫が必要となっています。

④橘高等学校

ア. 第1次計画における位置付け

それぞれの生徒に合わせたより柔軟な制度にするため、これまで設置されている三年制課程を廃止し、四年制課程に改編する。なお、三年制課程の廃止に伴い、本来の授業時間以外に行う、いわゆる0校時の授業の導入や学校外学修及び技能審査の単位認定等により3年間での卒業を可能にしていく。

イ. 第1次計画における取組状況

平成 25 年度より定時制三年制課程を廃止し、四年制課程のみの2学級編成としました。四年制課程に0校時を設定し、3年間で卒業が可能となる三修制コースを選択できるようにしました。

ウ. 取組における具体的な成果・課題等

三修制コースを選択した生徒は0校時や学校外学修、技能審査、高等学校卒業程度認定試験等を利用することで卒業単位数を満たせば3年間での卒業が可能となります。またコースを選択した生徒でも単位修得が困難になった場合は、四年制課程として4年間での卒業が可能となるため、退学する生徒数が減少しました。

三年制課程入学生徒の中途退学率は、平成 20 年度から 24 年度は 42.1%でしたが、平成 25 年度から 27 年度は 28.1%に減りました。

⑤高津高等学校

ア. 第1次計画における位置付け
従来どおりとする。

イ. 第1次計画における取組状況

普通科のみの3学級編成で、定時制としては規模の大きい学校として、学習活動及び特別活動に取り組んでいます。

ウ. 取組における具体的な成果・課題等

平成29年9月より定時制生徒自立支援業務委託事業のモデル校2校目として、学校内にカフェ形式の居場所を作りました。キャリアサポートを中心とした取組では、生徒が面接練習や求人票の記載について等の相談に訪れ効果が見られました。平成30年度は更に、学習サポートの充実も図り取り組んでいます。

3 第2次計画策定に向けた基本的な考え方

(1) 新しい時代に求められる資質・能力の育成

グローバル化、情報化の進展等、社会の変化やSDGsの達成に向けた取組を踏まえ、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けることが必要です。

具体的には、次のような資質・能力を身に付けていくことを目指していきます。

- ・新たな価値を生み出す豊かな創造性
- ・グローバル化の中で多様性を尊重するとともに、現在まで受け継がれてきた我が国固有の領土や歴史について理解し、伝統や文化を尊重しつつ、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力
- ・地域や社会における産業の役割を理解し、地域創生等に生かす力

(2) 振興計画による取組の推進

振興計画で示された実施計画の取組内容の中で、特に「生徒の可能性を伸ばすための教育内容や教育方法の充実」、「開かれた高等学校づくりの推進」、「生徒の意欲的な活動を支援する条件づくり」を着実に推進します。

(3) 計画の取組期間

第2次計画の取組期間は、令和2年度から概ね10年間とします。

なお、取組の実施状況や社会情勢の変化等を踏まえ、本市総合計画やかわさき教育プランの点検・評価及び実施計画策定作業の中で検証・見直しを行っていきます。

4 主な課題と課題解決に向けた考え方

(1) 全日制課程 普通科

①普通科教育について

○カリキュラム・マネジメント

高等学校教育において大学入学者選抜が大きな影響を与えており、知識の暗記・再生に偏りがちで、生徒の思考力・判断力・表現力や、主体性をもって多様な人々と協働する態度などを育成する教育活動が不十分な面が見られます。また、各学校目標の目指す生徒像に向けた育成すべき力は、本来、各教科等横断的な学びで身に付くものでありますが、教科等間のつながりを意識した教育課程となっていない現状が見られます。

そのため、生徒が学ぶことの意義を実感でき、一人ひとりの資質・能力を伸ばせるような授業改善を行う必要があります。また、実社会において生徒が自分自身の課題を自ら見だし解決する力を身に付けるため、各教科での学習を結びつける教育活動を実施します。

更に、各学校における具体的な目標や内容を重視した総合的な探究の時間において、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習が行われるよう、教科等間のつながりを意識した教育課程を編成します。

○キャリア教育

キャリア教育については、各学校でのキャリア教育の在り方や進め方の検討が十分に行われておらず、学年間での連携、及び学校全体での継続的な取組が更に必要となります。そこで、予測不可能な社会を生き抜くため、自らのキャリアをデザインする力の育成に向けた教育課程の編成に取り組みます。

また、生徒の「学ぶこと」や「働くこと」への意欲や積極的な態度を育成するための取組を充実させるため、生徒にとって最も身近である地域と学校とが連携しながら、体験と実践を伴った探究的な学びを進めていきます。

○ICT環境の整備

社会の情報化が急速に進展し、それに対応する能力の育成に向けた環境を整える必要があります。大学入試においては、CBT方式（Computer Based Testing：コンピュータで受験する方式）の導入やe-ポートフォリオ（「学び」の記録の電子化）を利用した出願等が検討されており、それに対応するために必要なICT機器等の導入を進めます。

また、ICTを活用した、学科・分野を超えた学びを可能にし、カリキュラム・マネジメントの更なる充実を図ることも必要です。

ICT環境については、これからの教育活動に必要不可欠なものであることを踏まえ、生徒が情報や情報手段を選択し、活用する能力を身に付け、情報社会に主体的に対応していく力の育成のため、ICT環境を備え、ICT機器を活用した市立高等学校間や大学等外部との連携による取組の実施に向け、検討を進めます。

○中学生の普通科志向

近年の中学生の普通科志向について対応する必要があり、現在、普通科と専門学科のそれぞれで複数の学級を設置している幸高等学校において検討・改善を行います。

②中高一貫教育校について

○グローバルコミュニケーション力

中高一貫教育校における教育活動の重点であるグローバルコミュニケーション力の育成については、これからの国際社会において活躍するために必要な、社会課題に対する関心や教養、コミュニケーション能力等を向上させる取組が求められており、各教科や学校行事等において検討・改善を行います。

海外研修では、当初の計画よりも希望者数が上回り、現地での受け入れ態勢が十分に整わない等の課題が生じたため、参加生徒の現地での受け入れ態勢を整えるとともに、生徒が充実感を味わえるよう、学習プログラム等の検討・改善を行います。

○総合的な探究の時間

総合的な探究の時間においては、学習活動を通して、課題を発見し解決していくための資質・能力の育成を目指すことが求められており、中高一貫教育校として、調査・研究・発表で終わることなく、生徒間での討議等、学びが深まる取組となるよう検討・改善を行います。

特に地域課題の発見や解決に取り組もうとする力が求められていますので、大学や企業等との連携をこれまで以上に密にし、課題発見・解決に向け、新たな視点を加えた取組等の充実を図ります。併せて、一人1台のBYOD方式によるタブレットの活用を推進します。

○特色ある中高一貫教育

附属中学校からの進学生徒と高等学校からの入学生徒との間の、ICT活用の習熟度や学習到達度等の違いについては、学習会や生徒同士の学び合い等の機会の充実を図る等の対応を継続します。

中高一貫教育校の特徴の一つである、6年間の体系的・継続的な教育活動の更なる推進を図るため、検討・改善が求められています。そのため、「学習指導要領によらない特別の教育課程」の編成や学級編成についての検討・改善を行います。

(2) 全日制課程 専門学科

①専門教育について

○専門教育

専門学科においては、地域や社会の発展を担う職業人を育成するため、社会や産業の変化の状況に応じた専門教育の指導が必要であり、そのため、専門学科における進路実現を目指した科目構成や内容の検討・改善を行います。

また、進路等を意識させるための職業体験の機会が十分ではないため、生徒の特性や進路を考慮し、企業等における体験活動の機会を設ける必要があります。

生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、地域や企業、大学等との連携を行い、「キャリア在り方生き方教育」や職業教育の推進を図ります。

○専門学科離れ

いくつかの専門学科で、ここ数年の入学者選抜において定員割れが生じてしまいました。現在、専門学科で複数の学級を設置している幸高等学校においては、ビジネス教養科の学級編成について普通科とのバランスを考慮しながら検討・改善を行います。

②専門学科の情報発信について

○情報発信

中学生の進路選択において、専門学科離れは全国的な課題であり、今後の専門学科の在り方について検討し、特色ある専門教育について中学生や地域への理解を深める取組の実施に向け、検討を進めます。

(3) 定時制課程

①定時制自立支援について

○自立支援

定時制課程では、不登校経験者や日本語指導が必要等、様々な課題を抱える生徒の相談や進路指導等を教員以外の方の協力を得て対応できるようにすることや、生

徒同士の学び合いの場となる居場所づくりが必要とされています。

現在、川崎高等学校、高津高等学校の2校で実施している定時制生徒自立支援のモデル事業の充実と他の2校への拡大を積極的に進めます。

②定時制における学びについて

○学びの充実

様々な課題を抱える生徒に対して、個に応じた学びの充実が求められています。

そこで、高校教育の質の確保・向上を図るため、学び直しや特別な支援が必要な生徒への対応、優れた才能・個性を有する生徒への支援等、様々な幅広いニーズに対応できるよう検討・改善を行います。

特に外国につながる生徒数の増加による日本語指導の支援については、早急に対応を進める必要があることから、日本語指導が必要な生徒への対応のより一層の充実を図ります。

○学級編成

近年、ニーズの高い昼間部と大幅な定員割れを続けている夜間部の学級編成についての検討・改善を行います。（詳細は28,29ページ 受検者数・倍率）

特に昼間部の設置に関しては、教室の確保や活動時間の調整、地域の状況等を踏まえる必要があります。

また、定時制専門学科についても、今後の動向に注視し、学科の改編を含めた募集学級数について検討を進めていくことが必要です。

5 第2次計画の取組内容

(1) 全日制課程 普通科

①魅力ある普通科教育の推進

○カリキュラム・マネジメント

各教科等の見方・考え方を働かせた横断的な視点による教育課程の編成と実施、評価、改善を進めるカリキュラム・マネジメントの充実を図るとともに、生徒が身に付けるべき資質・能力の育成に向けた各教科等の指導計画や授業改善、指導力向上等の教職員研修を実施します。

○キャリア教育

総合的な探究の時間の充実を図った体験的な学習活動や問題発見・解決的な学習活動、キャリアに直結する学校設定科目における近隣の学校や専門学校等と連携した体験的・課題解決的な授業、外部講師による体験的な学習活動等の取組の推進を図ります。

また、インターンシップを積極的に実施するとともに、体験と実践を伴った探究的な学びを進めます。

○ICT環境の整備

ICT環境については、高津高等学校と橘高等学校において、無線LAN等の整備の充実を計画的に図ります。また、ネットワークを活用した市立高等学校間の連携やICT環境を活用した個に応じた教育等についても試行に取り組み、検証・改善しながら、実施します。

これらの取組については、普通科のみ設置されている高津高等学校において先行実施し、検証・改善を行い、橘高等学校、幸高等学校の普通科への取組につなげます。

○中学生の普通科志向

中学生の普通科志向を踏まえ、幸高等学校普通科の入学者選抜での2学級募集を3学級募集へ拡大します。

②中高一貫教育校の充実

○グローバルコミュニケーション力

中高一貫教育校においては、様々な教科の特色を生かした教育課程の編成や、市のグローバル人財育成事業への積極的な参加等、教科、行事、特別活動を活用し、グローバルコミュニケーション力の向上につながる取組を進めます。

特に、海外研修について検証・評価を行い、更に効果ある取組となるよう、また対象生徒に応じて、実施場所や語学力に応じた取組内容を検討する等、改善を図ります。

○総合的な探究の時間

総合的な探究の時間についても、充実に向け、横浜国立大学等、大学や企業等と連携し、課題の発見・解決・調査・研究・発表・討議等について指導を受けるなど

外部の知見を活用した取組を図ります。外部との連携に際しては、ICT機器を効果的に使用し、更なる効果をあげるよう工夫します。

○特色ある中高一貫教育

現在実施している、学習会や学び合い等の取組について、進路目標や自己の学習到達度等に対応できるよう改善・充実を図ります。

中高一貫教育校における特色ある「学習指導要領等によらない特別の教育課程」の編成により、中高6年間の体系的・継続的な学びの充実を図るため、これまで高等学校で実施していた普通科の選抜募集を停止します。

【スケジュール】

	取組概要	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度～
①	カリキュラム、キャリア教育	高津：カリキュラム検討・準備	高津：カリキュラム公表	高津：カリキュラム実施	幸、橘：カリキュラム検討・準備	
	ICT環境の整備	実施順序(高津→橘)：無線LAN環境等の整備 ネットワーク活用等、試験的な取組を検討				
	学級編成等	募集学級数の公表	幸(普通科)：2学級→3学級			
②	グローバルコミュニケーション力	川崎：取組の検討				川崎：検討結果に基づく取組の充実
	総合的な探究の時間	川崎：取組の検討	川崎：検討を踏まえた取組の実施			取組の検証・改善
	中高一貫教育の推進	川崎：教育課程検討 募集学級数の公表	川崎：特別の教育課程の編成・実施 川崎(普通科)：募集停止			取組の検証・改善

※募集定員、学級数については教育委員会議で正式決定します。

(2) 全日制課程 専門学科

①進路実現を目指した専門教育

○専門教育

各校において専門学科で学んだことを生かし、進路実現が可能となるよう、持続可能な社会の構築、情報化の一層の進展、グローバル化への対応といった視点から、時代の変化やニーズに対応した科目構成や内容について検討・改善を進めることで、社会や産業の変化に対応できる人材の育成を目指した教育活動に取り組みます。

その一つとして、生徒が主体的に進路選択することができるよう、「かわさきキャリア在り方生き方教育」を推進するとともに、インターンシップを実施します。インターンシップについては、これまでの取組に加えて実施先や期間、内容等を検討・改善し、より一層の充実を図ります。

○専門学科離れ

近年における中学生の普通科志向や志願状況を踏まえ、専門学科において、複数の学級を設置している幸高等学校ビジネス教養科の4学級募集を3学級募集へ変更します。

②特色ある専門学科の情報発信

○情報発信

特色ある専門学科の取組や成果を中学校や地域等、外部へ積極的に紹介し、専門学科についての理解を広めるとともに、中学生の将来に対する視野を広げ、具体的にイメージできるよう取組を推進します。中学生に市立高等学校の専門学科を理解してもらうため、また専門学科の生徒の意欲を高めるため、各校における説明会等や市立高等学校専門学科の合同発表会開催等の取組を進めます。

【スケジュール】

	取組概要	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度～
①	科目構成・内容の改善	幸、総合科学等：カリキュラム公表 幸、総合科学等：科目構成・内容等の改善 科目構成・内容等の検討				
	キャリア、インターンシップ	幸、総合科学等： 幸、総合科学等： 幸、総合科学等：インターンシップの充実を 検討・準備 カリキュラム公表 踏まえたカリキュラムの推進				
	学級編成等	募集学級数の公表 幸(ビジネス教養科)：4学級→3学級 状況に応じて検討				
②	学校説明会等の開催	説明会等の充実に向けた検討・準備・実施 合同発表会等の実施に向けた検討・準備 検討結果に基づく取組の実施				

※募集定員、学級数については教育委員会議で正式決定します。

(3) 定時制課程

①定時制生徒自立支援の充実

○自立支援

現在、川崎高等学校、高津高等学校で実施している中途退学の防止や進路実現に向けた定時制生徒自立支援事業の充実を図ります。

具体的には、これまでの相談・個別サポートに加え、進路や将来について相談アドバイスができるキャリアサポートや生徒同士の学び合い等、学びの場を提供する学習サポートの充実を図ります。

また、橘高等学校、川崎総合科学高等学校についても、学校の状況に応じた事業の拡大を計画的に進めます。

②定時制における学びの充実

○学びの充実

定時制生徒の基礎学力の定着や学び直し等、様々な学習ニーズに対応した学びの充実を図るため、始業前や放課後に個別学習を行う等、生徒の学習機会の確保を図ります。特に、日本語指導の必要な生徒に対してのサポートや学校の支援体制のより一層の充実を図ります。

○学級編成

近年、大幅な定員割れを続けている高津高等学校定時制課程の3学級募集を2学級募集へ変更します。

また、ニーズの高い昼間部への進学希望に対応するため、川崎高等学校定時制昼間部の枠を拡大し、川崎高等学校定時制夜間部の募集を停止します。

【スケジュール】

	取組概要	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度～
①	自立支援事業の充実・拡大	川崎、高津：事業の充実 橘：定時制生徒自立支援事業実施		総合科学：定時制生徒自立支援事業実施		
②	生徒の学習機会の確保	検討・準備		放課後等を利用した学習機会の確保		取組の検証・改善
	支援が必要な生徒へのサポート	日本語支援の充実 特別な支援の検討		検討に基づく取組の実施		取組の検証・改善
	学級編成等	募集学級数の公表		川崎(夜間)：募集停止、(昼間)：2学級→4学級 高津：3学級→2学級		状況に応じて検討

※募集定員、学級数については教育委員会議で正式決定します。

6 市立高等学校の再編等の方針（イメージ図）



※○数字は学級数

※網掛けは変更部分

※網掛けは変更予定
 ※募集定員、学級数については
 教育委員会議で正式決定

取組の概要		R 1 年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度～	
全日制 普通科	①魅力ある普通科教育の推進	カリキュラム・マネジメント、キャリア教育の推進・充実	高津：カリキュラム検討・準備	高津：カリキュラム公表	高津：カリキュラム実施	幸、橋：取組の検討・準備	幸、橋：取組の検証・改善	
		I C T 環境の整備	高津：BYOD試行運用	(実施順序) 高津→橋 無線LAN環境等の整備		遠隔教育や市立高校間のネットワーク活用を念頭に試験的な取組を検討		
		学級編成等		募集学級数の公表	幸(普通科)：2学級→3学級募集			
	②中高一貫教育校の充実	グローバルコミュニケーション力の向上		川崎：取組の検討			川崎：検討結果に基づく取組の充実	
		総合的な探究の時間の充実		川崎：取組の検討	川崎：検討結果を踏まえた取組の実施			取組の検証・改善
		特色ある中高一貫教育の推進		川崎：特別の教育課程の検討	募集学級数の公表 川崎：「学習指導要領等によらない特別の教育課程」の編成・実施 川崎(普通科)：募集停止			取組の検証・改善
全日制 専門学科	①進路実現を目指した専門教育	各教科の科目構成や内容の改善		幸、総合科学等：科目構成・内容等の検討	幸、総合科学等：カリキュラム公表	幸、川崎総合科学等：科目構成・内容等の改善		
		キャリア教育、インターンシップの推進・充実		幸、総合科学等：検討・準備	幸、総合科学等：カリキュラム公表	幸、川崎総合科学等：インターンシップの充実を踏まえたカリキュラムの推進		
		学級編成等		募集学級数の公表	幸(ビジネス教養科)：4学級→3学級募集		生徒数・進路希望に応じて検討・対応	
	②特色ある専門学科の情報発信	学科説明会等の開催	全校：説明会等の充実に向けた検討・準備	全校：合同発表会等の実施に向けた検討・準備	全校：合同発表会等の取組の実施			
定時制課程	①定時制生徒自立支援の充実	生徒自立支援事業(カフェ)の充実、拡大	川崎、高津：事業の実施	川崎、高津：事業の充実 橋：定時制生徒自立支援事業実施	川崎総合科学：定時制生徒自立支援事業実施			
		生徒の学習機会の確保		全校：検討・準備		全校：始業前、放課後等を利用した学習機会の確保	取組の検証・改善	
	②定時制における学びの充実	日本語指導や特別な支援が必要な生徒へのサポートの整備	全校：日本語指導非常勤講師の配置	全校：日本語指導非常勤の配置の充実	教育委員会：特別な支援に関する検討	全校：検討結果に基づく取組の実施	取組の検証・改善	取組の検証・改善
		学級編成等		募集学級数の公表	川崎(夜間部)：募集停止 (昼間部)：2学級→4学級募集 高津：3学級→2学級募集		生徒数・進路希望に応じて検討・対応	

新学習指導要領実施

※社会状況の変化等でスケジュールは見直す場合があります。

【参考資料】

(1) 川崎市内公立高等学校

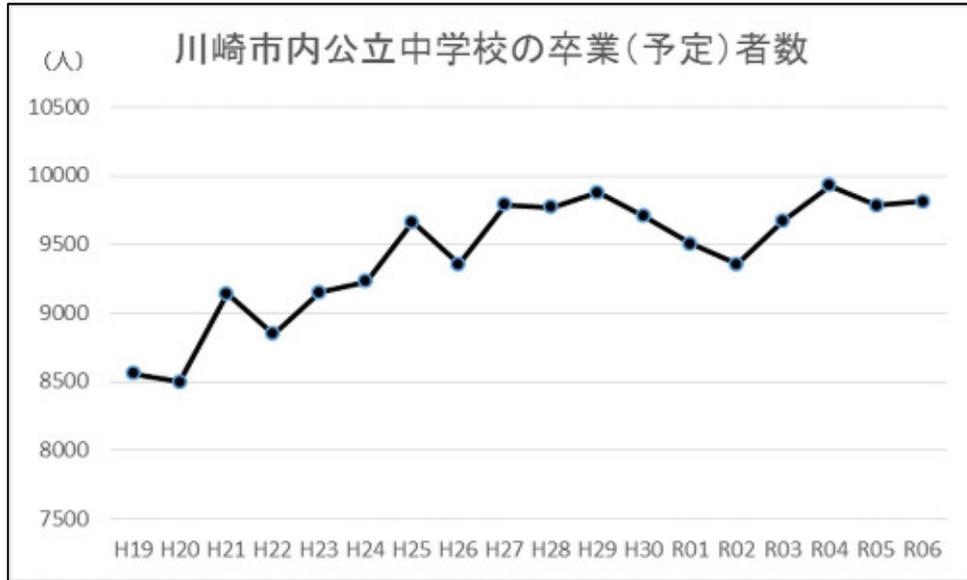
	名称	県立高校の再編の内容	設置学科・コース・部等
県立高等学校	川崎（全）		単位制普通科
	（定）		単位制普通科
	大師	総合学科は H29 年度募集停止	単位制普通科・総合学科
	川崎工科	総合技術高校に改編（H22 年度）	総合技術科（機械エンジニアコース・ロボットシステムコース・電気テクノロジーコース・情報メディアコース・環境エンジニアコース・食品サイエンスコース）
	新城		普通科
	住吉		普通科
	川崎北		普通科
	多摩		普通科
	向の岡工業（全）		機械科・電気科・建設科
	（定）		総合学科
	生田	コース制（一般、自然科学）は H29 年度募集停止	普通科
	百合丘		普通科
	生田東		普通科
	菅		普通科
	麻生総合		総合学科
麻生		普通科	
市立高等学校	川崎（全）	/	普通科・生活科学科・福祉科
	（定）		普通科昼間部・普通科夜間部
	幸		普通科・ビジネス教養科
	川崎総合科学（全）		情報工学科・総合電気科・電子機械科・建設工学科・デザイン科・科学科
	（定）		クリエイト工学科・商業科
	橘（全）		普通科・スポーツ科・国際科
	（定）		普通科
高津（全）	普通科		
（定）	普通科		

(2) 川崎市内公立中学校の卒業生数及び卒業予定者数の推計

(人)

年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24
人数	8,562	8,502	9,141	8,849	9,153	9,234

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30
人数	9,663	9,358	9,792	9,770	9,881	9,705



教育調査統計資料

(川崎市教育委員会) より

H29 まで：進路状況の推移

H30 まで：進路希望状況

(3) 中学校卒業生の動向・地域別公立中学校卒業予定者数

(人)

卒業年月 現在の在籍	H31.3 高1	R02.3 中3	R03.3 中2	R04.3 中1	R05.3 小6	R06.3 小5	R07.3 小4	R08.3 小3	R09.3 小2	R10.3 小1
神奈川県	68,742	67,062	65,054	67,004	67,920	67,015	66,252	66,290	64,212	64,069
増減	▲ 398	▲ 1,680	▲ 2,008	1,950	916	▲ 905	▲ 763	38	▲ 2,078	▲ 143
川崎市	9,709	9,756	9,601	9,929	10,477	10,295	10,282	10,419	10,347	10,424
増減	▲ 172	47	▲ 155	328	548	▲ 182	▲ 13	137	▲ 72	77

令和元年度学校基本調査に基づく推計

(神奈川県教育委員会作成) より

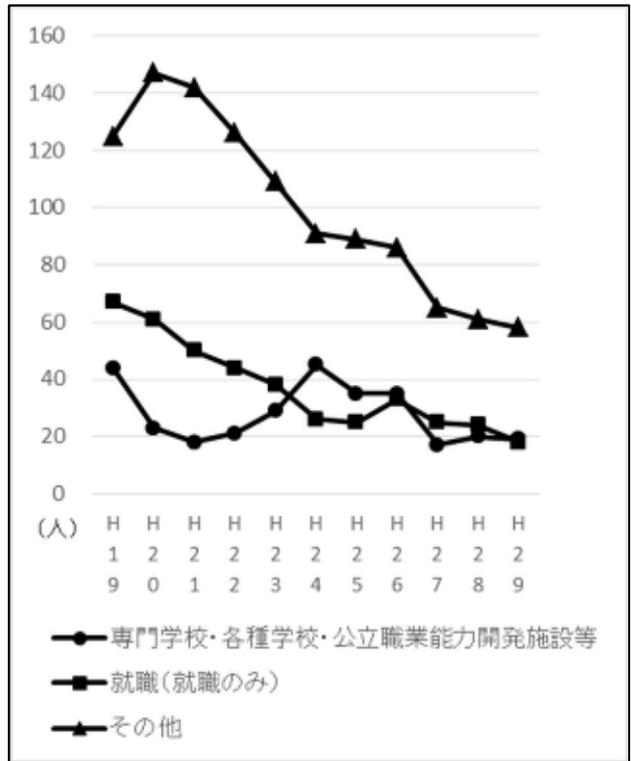
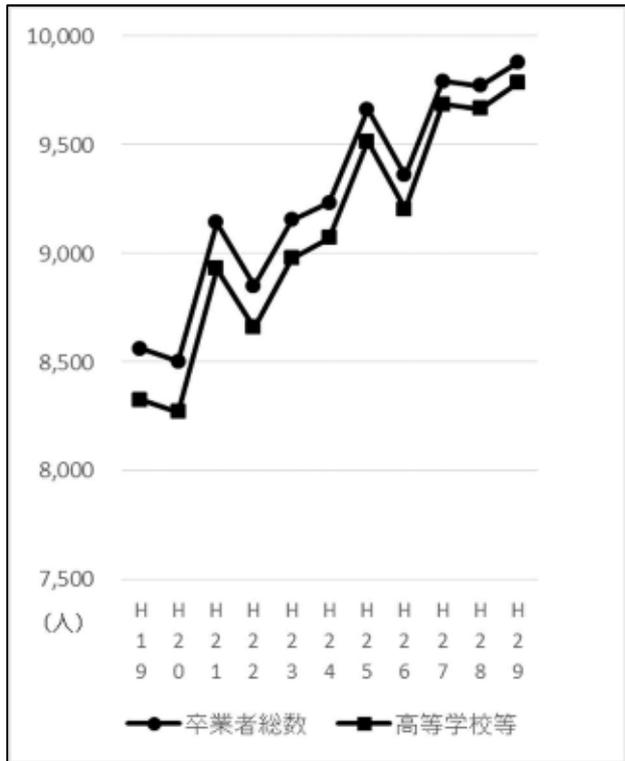
(4) 川崎市内公立中学校の卒業者の進路状況

(人)

各年度卒業者の翌年度5月1日現在

区分	卒業者総数	高等学校等	全日制高等学校				定時制高等学校	通信制高等学校	高等学校別科	中等教育(本科)全日制	高等専門学校	特別支援学校高等部	専修学校高等課程	専修学校(一般・各種)		公共職業能力開発施設等	就職(就職のみ)	その他		
			川崎市立	市内県立	市外公立	私立								専修学校一般課程	各種学校					
H19	8,562	8,326	7,631	992	2,949	737	2,953	390	203	-	-	14	88	28	16	3	13	-	67	125
H20	8,502	8,271	7,503	1,016	2,799	819	2,869	439	215	-	-	20	94	10	12	-	12	1	61	147
H21	9,141	8,931	8,060	1,038	3,056	927	3,039	457	264	-	-	15	135	11	6	1	5	1	50	142
H22	8,849	8,658	7,748	1,020	2,915	936	2,877	492	289	-	-	15	114	12	9	3	6	-	44	126
H23	9,153	8,977	8,052	1,008	3,092	1,053	2,899	479	281	-	-	29	136	16	12	7	5	1	38	109
H24	9,234	9,072	8,218	1,017	3,066	1,096	3,039	426	275	1	-	15	137	35	10	5	5	-	26	91
H25	9,663	9,514	8,639	1,027	3,320	1,142	3,150	406	298	1	-	17	153	22	11	5	6	2	25	89
H26	9,358	9,204	8,444	1,054	3,064	1,173	3,153	329	269	-	-	22	140	25	10	7	3	-	33	86
H27	9,792	9,685	8,962	1,025	3,226	1,218	3,493	287	269	-	-	21	146	9	8	1	7	-	25	65
H28	9,770	9,665	8,791	1,017	3,264	1,357	3,153	344	342	-	-	28	160	8	11	6	5	1	24	61
H29	9,881	9,786	8,947	1,049	3,179	1,270	3,449	274	384	1	-	22	158	12	7	-	7	-	18	58

※「その他」は、家事手伝い、入院・療養者、フリーアルバイト、海外の高等学校、死亡・不詳の者等。



教育調査統計資料より

(5) 川崎市立高等学校の入学者選抜における定員・受検者数・倍率

(注) 平成31年度：平成30年度に実施された「平成31年度入学者選抜」の結果

①全日制課程

○川崎市立川崎高等学校全日制課程及び附属中学校

【川崎高等学校 普通科】

(人)

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	共通	二次	共通	二次	共通	二次	共通	二次
定員	158	—	38	4	38	—	38	—
受検者	205	—	34	17	42	—	44	—
倍率	1.30倍	—	0.89倍	4.25倍	1.11倍	—	1.16倍	—

【川崎高等学校 生活科学科】

(人)

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	共通	二次	共通	二次	共通	二次	共通	二次
定員	39	—	39	—	39	—	39	—
受検者	61	—	44	—	45	—	44	—
倍率	1.56倍	—	1.13倍	—	1.15倍	—	1.13倍	—

【川崎高等学校 福祉科】

(人)

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	共通	二次	共通	二次	共通	二次	共通	二次
定員	39	—	39	1	39	—	39	4
受検者	52	—	38	2	44	—	35	1
倍率	1.33倍	—	0.97倍	2.00倍	1.13倍	—	0.90倍	0.25倍

【川崎高等学校附属中学校】

(人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
定員	120	120	120	120
志願者	553	523	535	519
倍率	4.61倍	4.36倍	4.46倍	4.33倍

○川崎市立幸高等学校 全日課程（平成28年度までは川崎市立商業高等学校）

【幸高等学校 普通科】

(人)

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	共通	二次	共通	二次	共通	二次	共通	二次
定員	—	—	78	—	78	—	78	—
受検者	—	—	90	—	105	—	91	—
倍率	—	—	1.15倍	—	1.35倍	—	1.17倍	—

【幸高等学校 ビジネス教養科】

(人)

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	共通	二次	共通	二次	共通	二次	共通	二次
定員	238	22	158	—	158	—	158	22
受検者	216	39	222	—	197	—	136	20
倍率	0.91倍	1.77倍	1.41倍	—	1.25倍	—	0.86倍	0.91倍

○川崎市立川崎総合科学高等学校 全日課程

【川崎総合科学高等学校 情報工学科】

(人)

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	共通	二次	共通	二次	共通	二次	共通	二次
定員	39	—	39	—	39	—	39	—
受検者	53	—	40	—	64	—	55	—
倍率	1.36倍	—	1.03倍	—	1.64倍	—	1.41倍	—

【川崎総合科学高等学校 総合電気科】

(人)

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	共通	二次	共通	二次	共通	二次	共通	二次
定員	39	9	39	—	39	—	39	—
受検者	26	12	40	—	55	—	42	—
倍率	0.67倍	1.33倍	1.03倍	—	1.41倍	—	1.08倍	—

【川崎総合科学高等学校 電子機械科】

(人)

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	共通	二次	共通	二次	共通	二次	共通	二次
定員	39	—	39	—	39	—	39	—
受検者	43	—	43	—	57	—	60	—
倍率	1.10倍	—	1.10倍	—	1.46倍	—	1.54倍	—

【川崎総合科学高等学校 建設工学科】 (人)

	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31 年度	
	共通	二次	共通	二次	共通	二次	共通	二次
定員	39	3	39	—	39	—	39	—
受検者	34	4	43	—	61	—	51	—
倍率	0.87 倍	1.33 倍	1.10 倍	—	1.56 倍	—	1.31 倍	—

【川崎総合科学高等学校 デザイン科】 (人)

	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31 年度	
	共通	二次	共通	二次	共通	二次	共通	二次
定員	39	—	39	—	39	—	39	—
受検者	46	—	52	—	49	—	61	—
倍率	1.18 倍	—	1.33 倍	—	1.26 倍	—	1.56 倍	—

【川崎総合科学高等学校 科学科】 (人)

	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31 年度	
	共通	二次	共通	二次	共通	二次	共通	二次
定員	39	—	39	—	39	—	39	1
受検者	40	—	53	—	47	—	38	1
倍率	1.03 倍	—	1.36 倍	—	1.21 倍	—	0.97 倍	1.00 倍

○川崎市立橋高等学校 全日制課程

【橋高等学校 普通科】 (人)

	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31 年度	
	共通	二次	共通	二次	共通	二次	共通	二次
定員	198	—	198	—	198	—	198	—
受検者	286	—	251	—	234	—	292	—
倍率	1.44 倍	—	1.27 倍	—	1.18 倍	—	1.47 倍	—

【橋高等学校 スポーツ科】 (人)

	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31 年度	
	共通	二次	共通	二次	共通	二次	共通	二次
定員	39	—	39	—	39	—	39	—
受検者	64	—	65	—	55	—	50	—
倍率	1.64 倍	—	1.67 倍	—	1.41 倍	—	1.28 倍	—

【橘高等学校 国際科】

(人)

	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31 年度	
	共通	二次	共通	二次	共通	二次	共通	二次
定員	39	—	39	—	39	—	39	—
受検者	56	—	73	—	72	—	47	—
倍率	1.44 倍	—	1.87 倍	—	1.85 倍	—	1.21 倍	—

○川崎市立高津高等学校 全日制課程

【高津高等学校 普通科】

(人)

	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31 年度	
	共通	二次	共通	二次	共通	二次	共通	二次
定員	278	—	278	—	278	—	278	—
受検者	366	—	326	—	405	—	335	—
倍率	1.32 倍	—	1.17 倍	—	1.46 倍	—	1.21 倍	—

②定時制課程

(注) 川崎高校定時制課程は共通選抜で欠員が生じた場合、二次募集を実施する。
他の定時制課程は共通選抜で定員の 80%を選抜し、残りを分割選抜で選抜、
欠員が生じた場合、二次募集を実施する。

○川崎市立川崎高等学校 定時制課程

【川崎高等学校定時制 普通科昼間部】

(人)

	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31 年度	
	共通	二次	共通	二次	共通	二次	共通	二次
定員	70	7	70	4	70	2	70	—
受検者	65	8	66	9	68	4	78	—
倍率	0.93 倍	1.14 倍	0.94 倍	2.25 倍	0.97 倍	2.00 倍	1.11 倍	—

【川崎高等学校定時制 普通科夜間部】

(人)

	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31 年度	
	共通	二次	共通	二次	共通	二次	共通	二次
定員	70	37	70	45	70	56	70	49
受検者	33	7	25	13	14	9	14	0
倍率	0.47 倍	0.19 倍	0.36 倍	0.29 倍	0.20 倍	0.16 倍	0.20 倍	0.00 倍

○川崎市立川崎総合科学高等学校 定時制課程

【川崎総合科学高等学校定時制 クリエイト工学科】

(人)

	平成 28 年度			平成 29 年度			平成 30 年度			平成 31 年度		
	共通	分割	二次									
定員	28	21	15	28	11	8	28	19	16	28	22	20
受検者	14	11	0	24	6	0	16	13	0	13	7	0
倍率(倍)	0.50	0.52	0.00	0.86	0.55	0.00	0.57	0.68	0.00	0.46	0.32	0.00

【川崎総合科学高等学校定時制 商業科】

(人)

	平成 28 年度			平成 29 年度			平成 30 年度			平成 31 年度		
	共通	分割	二次									
定員	28	21	12	28	24	16	28	26	22	28	29	29
受検者	14	21	0	11	18	0	9	7	0	6	7	0
倍率(倍)	0.50	1.00	0.00	0.39	0.75	0.00	0.32	0.27	0.00	0.21	0.24	0.00

※平成 28 年度の倍率は、旧商業高等学校定時制商業科の数値

○川崎市立橘高等学校 定時制課程

【橘高等学校定時制 普通科】

(人)

	平成 28 年度			平成 29 年度			平成 30 年度			平成 31 年度		
	共通	分割	二次									
定員	56	45	31	56	40	15	56	35	26	56	47	44
受検者	25	24	0	30	41	2	35	17	2	23	16	0
倍率(倍)	0.45	0.53	0.00	0.54	1.03	0.13	0.63	0.49	0.08	0.41	0.34	0.00

○川崎市立高津高等学校 定時制課程

【高津高等学校定時制 普通科】

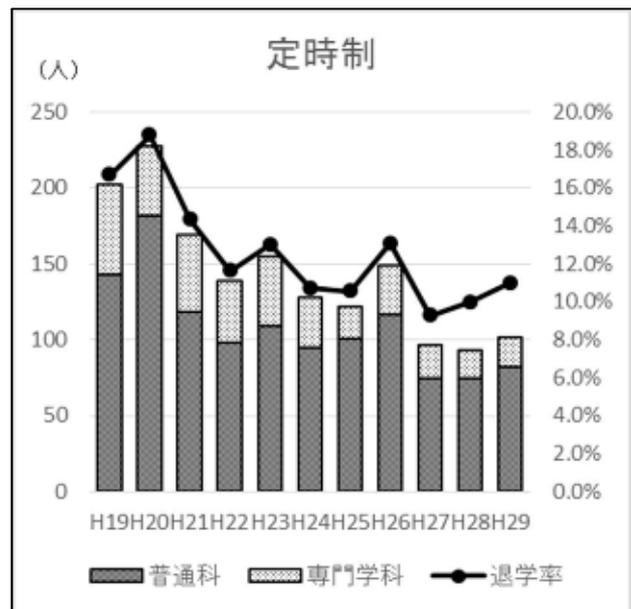
(人)

	平成 28 年度			平成 29 年度			平成 30 年度			平成 31 年度		
	共通	分割	二次									
定員	84	68	56	84	59	36	84	69	58	84	71	61
受検者	37	17	3	47	33	1	37	23	3	35	20	2
倍率(倍)	0.44	0.25	0.05	0.56	0.56	0.03	0.44	0.33	0.05	0.42	0.28	0.03

(6) 川崎市立高等学校の中途退学者数と中途退学率

(人)

	全日制				定時制			
	普通科	専門学科	合計	退学率	普通科	専門学科	合計	退学率
H19	13	23	36	1.02%	143	59	202	16.7%
H20	16	16	32	0.92%	182	45	227	18.8%
H21	13	24	37	1.06%	119	50	169	14.3%
H22	5	13	18	0.51%	98	41	139	11.6%
H23	3	22	25	0.70%	109	46	155	13.0%
H24	6	25	31	0.86%	95	33	128	10.7%
H25	11	17	28	0.77%	101	21	122	10.5%
H26	4	14	18	0.49%	117	32	149	13.1%
H27	7	10	17	0.46%	75	22	97	9.3%
H28	3	23	26	0.69%	75	18	93	10.0%
H29	3	25	28	0.75%	82	20	102	11.0%



教育調査統計資料より

(7) 川崎市立高等学校の卒業生の進路状況

ア 全日制 普通科

各年度卒業生の翌年度5月1日現在

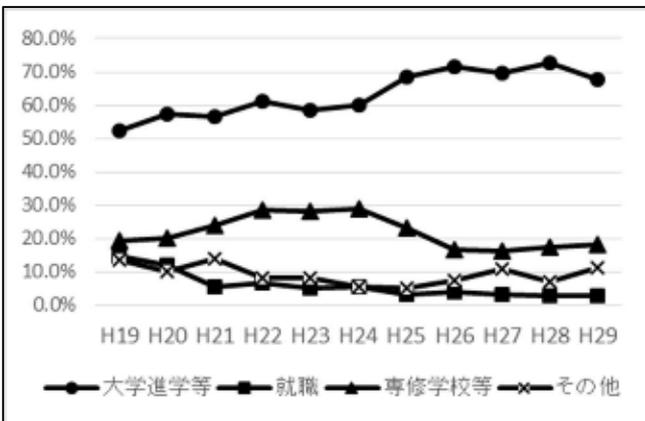
区分	人数 (人)									構成比 (%)							
	卒業生総数	計	大学等進学(含就職進学)			就職(就職のみ)	専修学校、各種学校、公共職業訓練施設等	一時的な仕事	左記以外			死亡・不詳	大学等進学(含就職進学)	就職(就職のみ)	専修学校、各種学校、公共職業訓練施設	左記以外・一時的な仕事・死亡・不詳	
			大学学部	の別科、専攻科	短大、大学・短大				大学・短大の通信教育部、放送大学	進学準備	家事手伝い						その他
H19	549	287	227	60	-	80	107	2	73	58	-	15	-	52.3	14.6	19.5	13.7
H20	534	307	247	60	-	65	107	-	55	34	5	16	-	57.5	12.2	20.0	10.3
H21	534	303	259	44	-	30	127	8	66	49	-	17	-	56.7	5.6	23.8	13.9
H22	535	328	275	53	-	35	153	2	41	25	-	16	-	61.3	6.5	25.6	6.5
H23	545	319	275	43	1	28	153	2	43	25	2	16	-	58.5	5.1	28.1	8.3
H24	581	348	306	41	1	32	169	5	27	17	1	9	-	59.9	5.5	29.1	5.5
H25	582	398	350	48	-	19	135	-	30	18	1	11	-	68.4	3.3	23.2	5.2
H26	578	414	372	42	-	23	97	-	44	42	-	2	-	71.6	4.0	16.8	7.6
H27	576	402	366	36	-	19	93	4	58	52	-	6	-	69.8	3.3	16.1	10.8
H28	629	457	408	49	-	17	110	-	45	40	2	3	-	72.7	2.7	17.5	7.2
H29	623	421	376	45	-	17	114	-	71	66	2	3	-	67.6	2.7	18.3	11.4

イ 全日制 専門学科

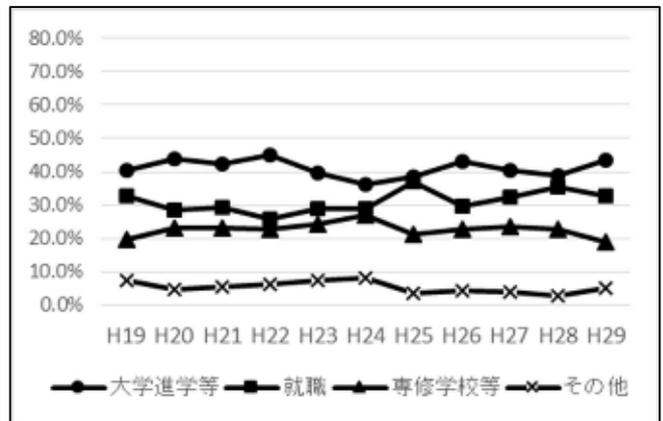
各年度卒業生の翌年度5月1日現在

区分	人数 (人)									構成比 (%)							
	卒業生総数	計	大学等進学(含就職進学)			就職(就職のみ)	専修学校、各種学校、公共職業訓練施設等	一時的な仕事	左記以外			死亡・不詳	大学等進学(含就職進学)	就職(就職のみ)	専修学校、各種学校、公共職業訓練施設	左記以外・一時的な仕事・死亡・不詳	
			大学学部	の別科、専攻科	短大、大学・短大				大学・短大の通信教育部、放送大学	進学準備	家事手伝い						その他
H19	604	245	213	32	-	197	118	12	32	11	8	13	-	40.6	32.6	19.5	7.3
H20	591	259	222	37	-	168	136	1	27	7	15	5	-	43.8	28.4	23.0	4.7
H21	605	256	222	34	-	177	140	6	26	17	7	2	-	42.3	29.3	23.1	5.3
H22	598	268	233	34	1	155	137	4	34	9	1	24	-	44.8	25.9	22.9	6.4
H23	603	239	202	36	1	174	146	8	36	17	-	19	-	39.6	28.9	24.2	7.3
H24	600	216	204	12	-	174	161	12	37	18	14	5	-	36.0	29.0	26.8	8.2
H25	604	232	218	14	-	223	128	5	16	4	5	7	-	38.4	29.0	26.8	8.2
H26	592	256	234	22	-	176	134	-	26	16	-	10	-	43.2	29.7	22.6	4.4
H27	607	245	219	26	-	197	142	-	23	9	10	4	-	40.4	32.5	23.4	3.8
H28	592	231	213	18	-	210	135	-	16	3	4	9	-	39.0	35.5	22.8	2.7
H29	609	264	244	20	-	200	114	-	31	15	4	12	-	43.3	32.8	18.7	5.1

全日制課程 普通科



全日制課程 専門学科



ウ 定時制 普通科

各年度卒業者の翌年度5月1日現在

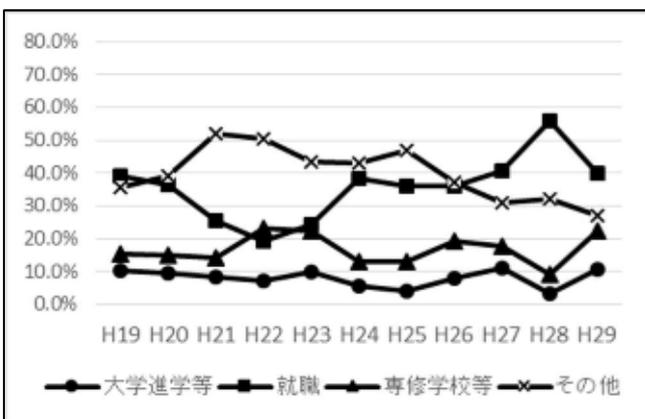
区分	人数 (人)											構成比 (%)					
	卒業 者 総 数	大学等進学(含就職進学)					就職 (就職のみ)	専修学校、 各種学校、 公共職業訓練 施設等	一時的な 仕事	左記以外			死亡・ 不詳	大学等 進学 (含就職 進学)	就職 (就職のみ)	専修学校、 各種学校、 公共職業訓練 施設	左記以外・ 一時的な 仕事、 死亡・ 不詳
		計	大学 学部	の 別 科 専 攻 科	短 大 、 大 学 、 短 大	大 学 、 短 大 の 通 信				進 学 等 の 備 用	家 事 手 伝 い	そ の 他					
H19	158	16	8	6	2	62	24	14	42	7	4	31	-	10.1	39.2	15.2	35.4
H20	181	17	13	3	1	66	27	41	30	3	5	22	-	9.4	36.5	14.9	39.2
H21	169	14	9	3	2	43	24	50	38	3	9	26	-	8.3	25.4	14.2	52.1
H22	182	13	11	2	-	35	42	53	39	4	4	31	-	7.1	19.2	23.1	50.5
H23	170	17	14	3	-	41	38	52	22	4	7	11	-	10.0	24.1	22.4	43.5
H24	198	11	6	5	-	76	26	38	47	11	9	27	-	5.6	38.4	13.1	42.9
H25	169	7	5	1	1	61	22	35	44	1	3	27	-	4.1	36.1	13.0	46.7
H26	181	14	9	5	-	65	35	19	48	7	13	28	-	7.7	35.9	19.3	37.0
H27	175	19	13	5	1	71	31	31	23	5	5	13	-	10.9	40.6	17.7	30.9
H28	131	4	4	-	-	73	12	16	26	3	9	14	-	3.1	55.7	9.2	32.1
H29	185	20	12	2	6	74	41	11	39	12	5	22	-	10.8	40.0	22.2	27.0

エ 定時制 専門学科

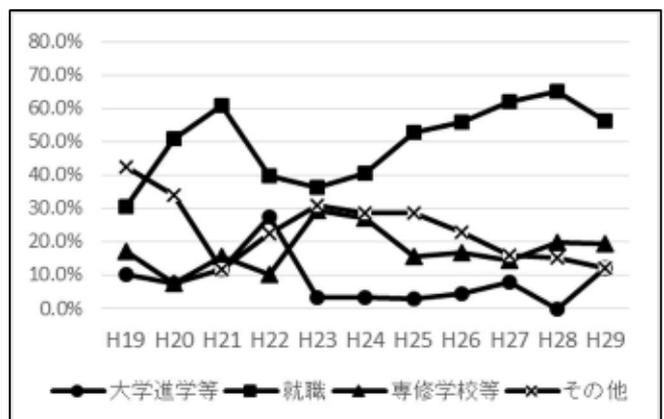
各年度卒業者の翌年度5月1日現在

区分	人数 (人)											構成比 (%)					
	卒業 者 総 数	大学等進学(含就職進学)					就職 (就職のみ)	専修学校、 各種学校、 公共職業訓練 施設等	一時的な 仕事	左記以外			死亡・ 不詳	大学等 進学 (含就職 進学)	就職 (就職のみ)	専修学校、 各種学校、 公共職業訓練 施設	左記以外・ 一時的な 仕事、 死亡・ 不詳
		計	大学 学部	の 別 科 専 攻 科	短 大 、 大 学 、 短 大	大 学 、 短 大 の 通 信				進 学 等 の 備 用	家 事 手 伝 い	そ の 他					
H19	59	6	3	3	-	18	10	2	23	-	-	23	-	10.2	30.5	16.9	42.4
H20	65	5	2	3	-	33	5	18	4	1	-	3	-	7.7	50.8	7.7	33.8
H21	51	6	2	4	-	31	8	4	2	1	1	-	-	11.8	60.8	15.7	11.8
H22	58	16	2	13	1	23	6	7	6	2	2	2	-	27.6	39.7	10.3	22.4
H23	58	2	2	-	-	21	17	8	10	3	7	-	-	3.4	36.2	29.3	31.0
H24	59	2	1	1	-	24	16	5	12	-	11	1	-	3.4	40.7	27.1	28.8
H25	70	2	-	2	-	37	11	7	13	6	-	7	-	2.9	52.9	15.7	28.6
H26	66	3	3	-	-	37	11	6	9	3	-	6	-	4.5	56.1	16.7	22.7
H27	76	6	5	1	-	47	11	6	6	1	-	5	-	7.9	61.8	14.5	15.8
H28	66	-	-	-	-	43	13	5	5	1	2	2	-	-	65.2	19.7	15.2
H29	41	5	5	-	-	23	8	4	1	-	-	1	-	12.2	56.1	19.5	12.2

定時制課程 普通科



定時制課程 専門学科



教育調査統計資料より

(8) 生徒へのアンケート結果

川崎市立川崎高等学校普通科2年生(中入生 108名)、1年生(中入生 107名)へのアンケート

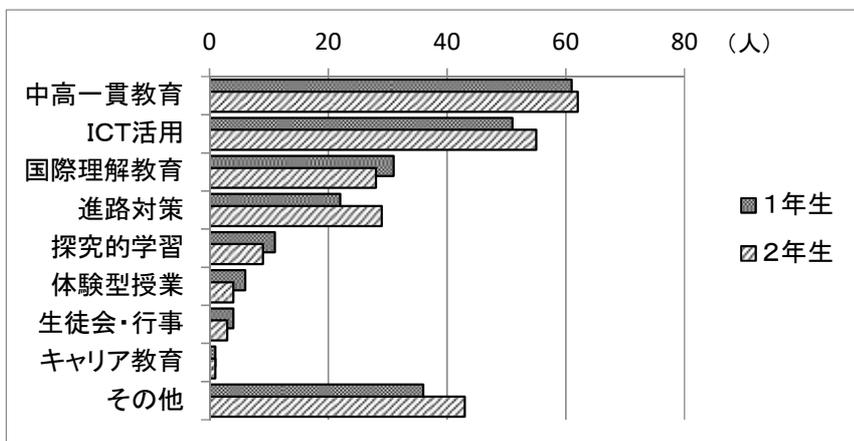
Q1. なぜ附属中学校を志望しましたか。あてはまるものに○をつけてください。

(最多3つまで)

- ① 6年間の中高一貫教育に魅力を感じたから
- ② 一人一台のパソコンや電子黒板機能付プロジェクター等のICT機器を活用した学習に魅力を感じたから
- ③ 体験活動を通じた探究的な学習に魅力を感じたから
- ④ 体験型の授業に魅力を感じたから
- ⑤ 生徒会活動や学校行事に魅力を感じたから
- ⑥ 国際理解教育に魅力を感じたから
- ⑦ 大学の研究施設等との連携や社会人講話、事業所体験などを通じたキャリア教育に魅力を感じたから
- ⑧ 6年間学ぶことにより、希望進路(大学進学等)に有効だと考えたから
- ⑨ その他

(人)

	志望理由	1年	2年
①	中高一貫教育	61	62
②	ICT活用	51	55
⑥	国際理解教育	31	28
⑧	進路対策	22	29
③	探究的学習	11	9
④	体験型授業	6	4
⑤	生徒会・行事	4	3
⑦	キャリア教育	1	1
⑨	その他	36	43



その他の主な意見

(人)

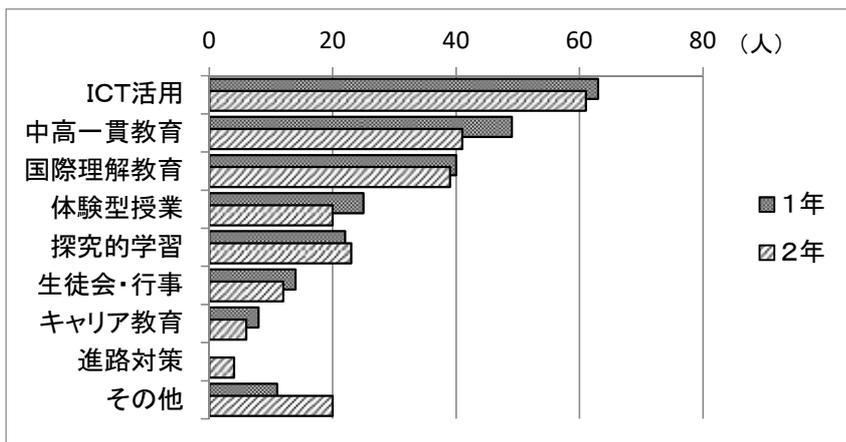
	1年	2年
家から近い	10	8
学区の学校に行きたくない	8	5
親から勧められた	7	5
高校受検しなくてよい	6	4
施設がよい	3	5
一期生だから	—	6

Q 2. 中学校3年間を過ごしてみて、「附属中学校の魅力」は何だと思えますか。あてはまるものに○をつけください。（最多3つまで）

- ① 6年間の中高一貫教育
- ② 一人一台のパソコンや電子黒板機能付プロジェクター等のICT機器を活用した学習
- ③ 探究的な学習
- ④ 体験型の授業
- ⑤ 生徒会活動や学校行事
- ⑥ 国際理解教育
- ⑦ 大学の研究施設等との連携や社会人講話、事業所体験などを通じたキャリア教育
- ⑧ 希望進路（大学進学等）の実現
- ⑨ その他

(人)

	附属中の魅力	1年	2年
②	ICT活用	63	61
①	中高一貫教育	49	41
⑥	国際理解教育	40	39
④	体験型授業	25	20
③	探究的な学習	22	23
⑤	生徒会・行事	14	12
⑦	キャリア教育	8	6
⑧	進路対策	0	4
⑨	その他	11	20



その他の主な意見

(人)

	1年	2年
施設がよい	4	1
先生方がよい	2	9
授業がよい (英語)	2	4

Q 3. 中学校3年間の学校生活の中（通常の授業以外）で「自分の成長に役立った」と思うものは何ですか。あてはまるものに○をつけてください。（最多3つまで）

- ①農作業体験 ⑧English Challenge
- ②職場体験 ⑨フィールドデイ
- ③体育祭 ⑩学習発表会（LEADタイム）
- ④神無祭 ⑪eラーニング
- ⑤合唱コンクール ⑫自然教室
- ⑥生徒会活動 ⑬修学旅行
- ⑦English Camp ⑭その他

(人)

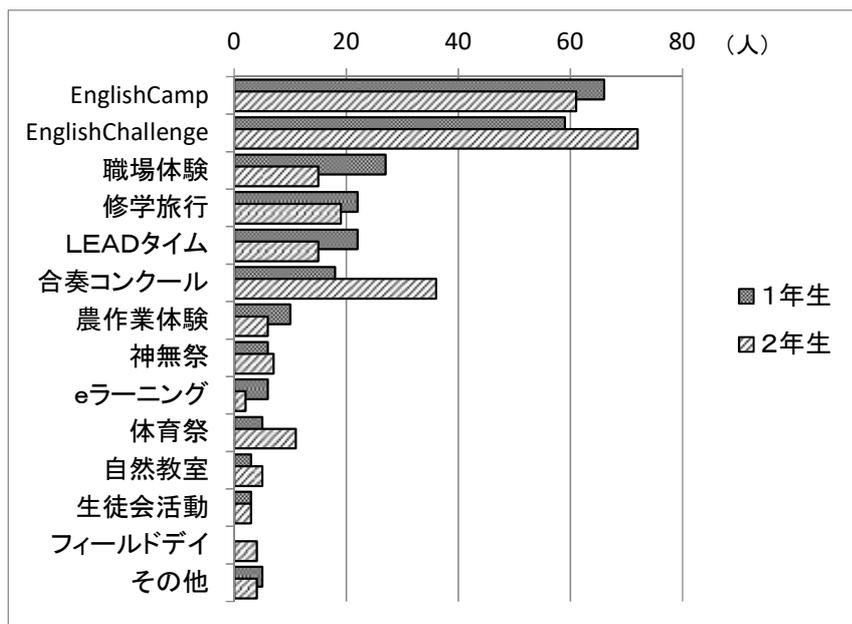
No.	役立った	1年	2年
⑦	EnglishCamp	66	61
⑧	EnglishChallenge	59	72
②	職場体験	27	15
⑬	修学旅行	22	19
⑩	LEADタイム	22	15
⑤	合奏コンクール	18	36
①	農作業体験	10	6
④	神無祭	6	7
⑪	eラーニング	6	2
③	体育祭	5	11
⑫	自然教室	3	5
⑥	生徒会活動	3	3
⑨	フィールドデイ	0	4
⑭	その他	5	4

【参考：用語解説】

	活動	概要
④	神無祭	文化祭
⑦	English Camp	生徒6人に対しネイティブスピーカーを1名程度派遣し、中1は校内で3日間、中2は宿泊施設で2泊3日、英語のみで生活し、会話、プレゼン、ディスカッション、発表などを行う。
⑧	English Challenge	毎年、各学年で学んだ英語を使い、演劇やスピーチや合唱などの発表を行う。企画から台本等すべてを生徒たちの手で行う。
⑨	フィールドデイ	キャリア教育の一環として、主に市内の最先端企業などの施設を訪問、見学をする。
⑩	LEADタイム発表会	LEADタイム（総合的な学習の時間）の発表会。 LEADとは、Learn、Experience、Action、Dreamの略。
⑪	eラーニング	パソコンを使った自学システムで、朝や帰りのHRの前後に各自で学習に取り組む

その他の主な意見 (人)

	1年	2年
部活動	4	1



Q 4. Q 3 で選んだ項目番号とその理由を具体的に書いてください。

主な意見（1年生）

- ・ English Camp…英語だけで過ごす貴重な体験をすることができた。
- ・ English Challenge…英語を使い、劇などを皆と一緒にすべて作り上げることができた。
- ・ 職場体験…実際の職場で体験することで、職業に関する理解が深まった。

（2年生）

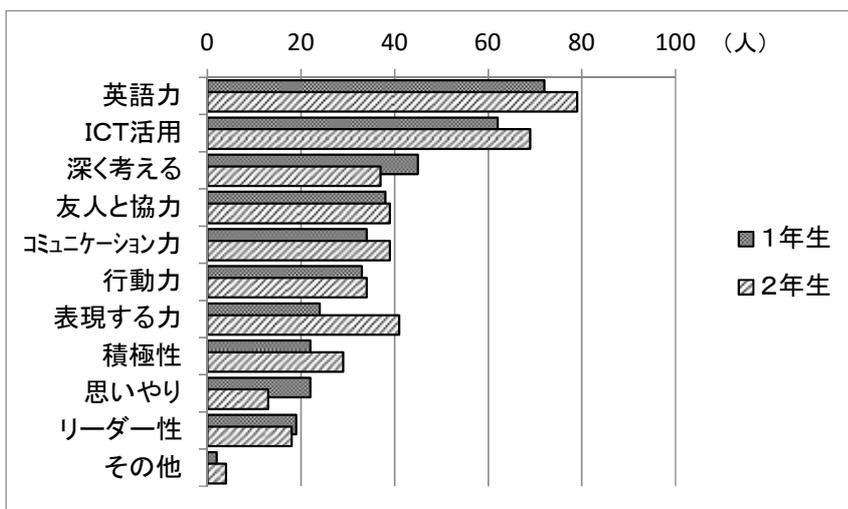
- ・ English Camp…英語だけで過ごす貴重な体験をすることができた。
- ・ English Challenge…英語を使い、劇などを皆と一緒にすべて作り上げることができた。
- ・ 合唱コンクール…クラスが1つにまとまり協力することの良さを学んだ。

Q 5. 中学校3年間で「身についた」、「力が伸びた」と思うものは何ですか。あてはまるものに○をつけてください。（複数可）

- | | |
|------------------|-------------|
| ①物事を深く考えること | ⑦行動力 |
| ②友達と協力して取り組むこと | ⑧積極性 |
| ③自分の考えを上手に表現すること | ⑨リーダー性 |
| ④ICTを活用すること | ⑩他人を思いやる気持ち |
| ⑤英語力 | ⑪その他 |
| ⑥コミュニケーション力 | |

(人)

	身についた	1年	2年
⑤	英語力	72	79
④	ICT活用	62	69
①	深く考える	45	37
②	友人と協力	38	39
⑥	コミュニケーション力	34	39
⑦	行動力	33	34
③	表現する力	24	41
⑧	積極性	22	29
⑩	思いやり	22	13
⑨	リーダー性	19	18
⑪	その他	2	4



Q 6. 「LEADタイム」(総合的な学習の時間)について、次の質問に関してそれぞれあてはまるもの1つに○をつけてください。

(1) 取り組んだテーマについて

(4段階評価: 大変興味深かった(評価4)、興味深かった(評価3)、あまり興味が持てなかった(評価2)、別のテーマがよかった(評価1))

(2) 取り組み方について

(4段階評価: 積極的に取り組めた(評価4)、ある程度積極的に取り組めた(評価3)、あまり積極的に取り組めなかった(評価2)、積極的に取り組めなかった(評価1))

(3) 発表について

(4段階評価: 満足のいく発表であった(評価4)、ある程度満足のいく発表であった(評価3)、あまり満足のいく発表ではなかった(評価2)、満足のいく発表でなかった(評価1))

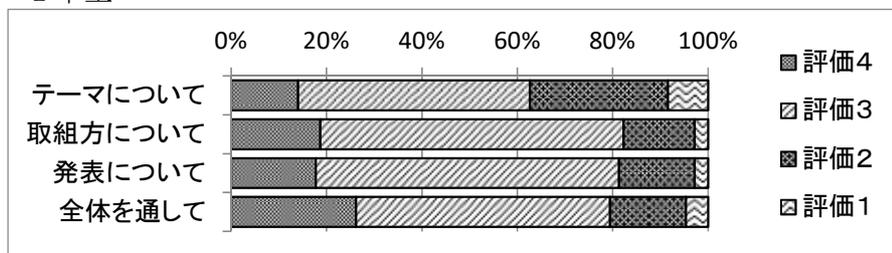
(4) 全体を通して

(4段階評価: 有意義な取り組みであった(評価4)、ある程度有意義な取り組みであった(評価3)、あまり有意義な取り組みではなかった(評価2)、有意義な取り組みではなかった(評価1))

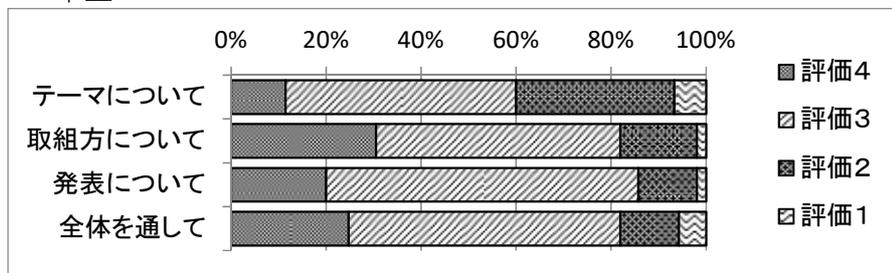
(人)

1年生		評価4	評価3	評価2	評価1
(1)	テーマについて	15	52	31	9
(2)	取組方について	20	68	16	3
(3)	発表について	19	68	17	3
(4)	全体を通して	28	57	17	5
2年生		評価4	評価3	評価2	評価1
(1)	テーマについて	12	51	35	7
(2)	取組方について	32	54	17	2
(3)	発表について	21	69	13	2
(4)	全体を通して	26	60	13	6

1年生



2年生



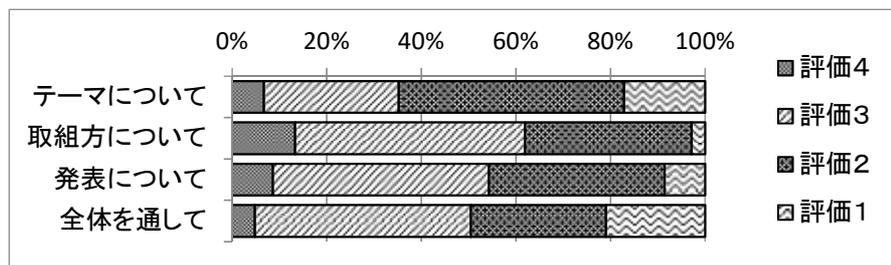
普通科2年生（中入生 108名）へのアンケート

Q 7. 総合探究について、次の質問に関してそれぞれあてはまるもの1つに○をつけてください。

- (1) 取り組んだテーマについて
（4段階評価：大変興味深かった（評価4）、興味深かった（評価3）、あまり興味が持てなかった（評価2）、別のテーマがよかった（評価1））
- (2) 取り組み方について
（4段階評価：積極的に取り組めた（評価4）、ある程度積極的に取り組めた（評価3）、あまり積極的に取り組めなかった（評価2）、積極的に取り組めなかった（評価1））
- (3) 発表について
（4段階評価：満足のいく発表であった（評価4）、ある程度満足のいく発表であった（評価3）、あまり満足のいく発表ではなかった（評価2）、満足のいく発表でなかった（評価1））
- (4) 全体を通して
（4段階評価：有意義な取り組みであった（評価4）、ある程度有意義な取り組みであった（評価3）、あまり有意義な取り組みではなかった（評価2）、有意義な取り組みではなかった（評価1））

(人)

	2年（中入生）	評価4	評価3	評価2	評価1
(1) テーマについて		7	30	50	18
(2) 取組方について		14	51	37	3
(3) 発表について		9	48	39	9
(4) 全体を通して		5	48	30	22

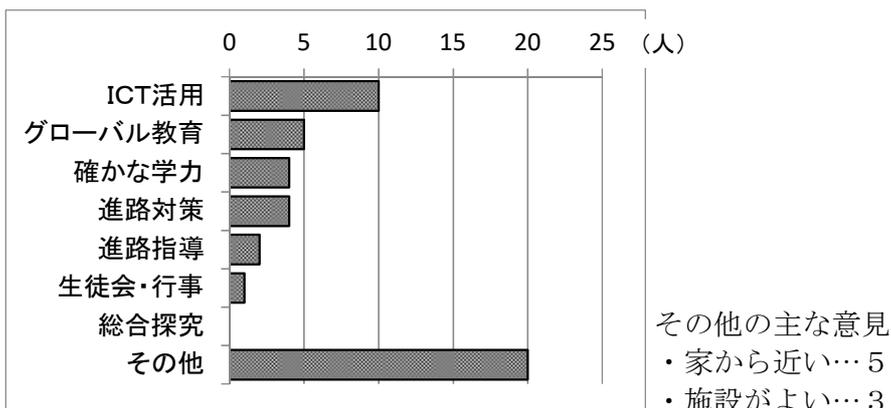


川崎市立川崎高等学校普通科2年生（高入生 33 名）へのアンケート

Q 8. なぜ川崎高等学校を志望しましたか。あてはまるものに○をつけてください。（最多3つまで）

- ①確かな学力を育む教育課程編成に魅力を感じたから
- ②進路指導に魅力を感じたから
- ③一人一台のパソコンや電子黒板機能付プロジェクター等のICT機器を活用した学習に魅力を感じたから
- ④総合探究（「かわさきよいまちづくりプロジェクト」「夢実現プロジェクト」）に魅力を感じたから
- ⑤グローバルコミュニケーション力を育む教育に魅力を感じたから
- ⑥生徒会活動や学校行事に魅力を感じたから
- ⑦希望進路（大学進学等）に有効だと考えたから
- ⑧その他

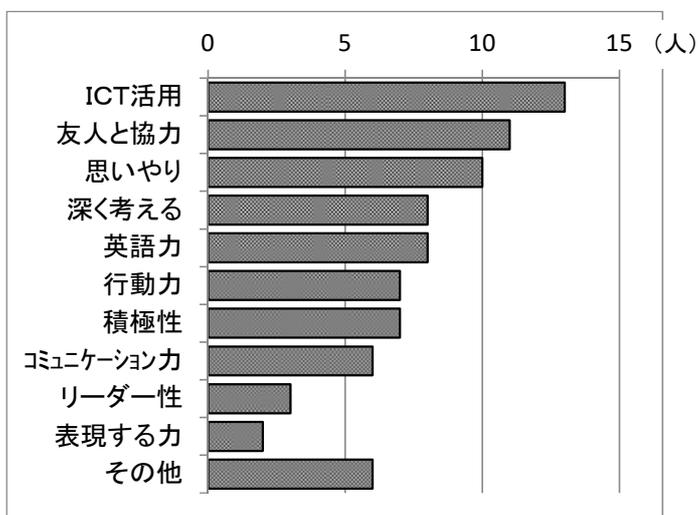
	志望理由	2年
③	ICT活用	10
⑤	グローバル教育	5
⑦	進路対策	4
①	確かな学力	4
②	進路指導	2
⑥	生徒会・行事	1
④	総合探究	0
⑧	その他	20



Q 9. 高校での1年間で「身についた」、「力が伸びた」と思うものは何ですか。あてはまるものに○をつけてください。（複数可）

- ①物事を深く考えること
- ②友達と協力して取り組むこと
- ③自分の考えを上手に表現すること
- ④ICTを活用すること
- ⑤英語力
- ⑥コミュニケーション力
- ⑦行動力
- ⑧積極性
- ⑨リーダー性
- ⑩他人を思いやる気持ち
- ⑪その他

	身についた	2年
④	ICT活用	13
②	友人と協力	11
⑩	思いやり	10
⑤	英語力	8
①	深く考える	8
⑧	積極性	7
⑦	行動力	7
⑥	コミュニケーション力	6
⑨	リーダー性	3
③	表現する力	2
⑪	その他	6



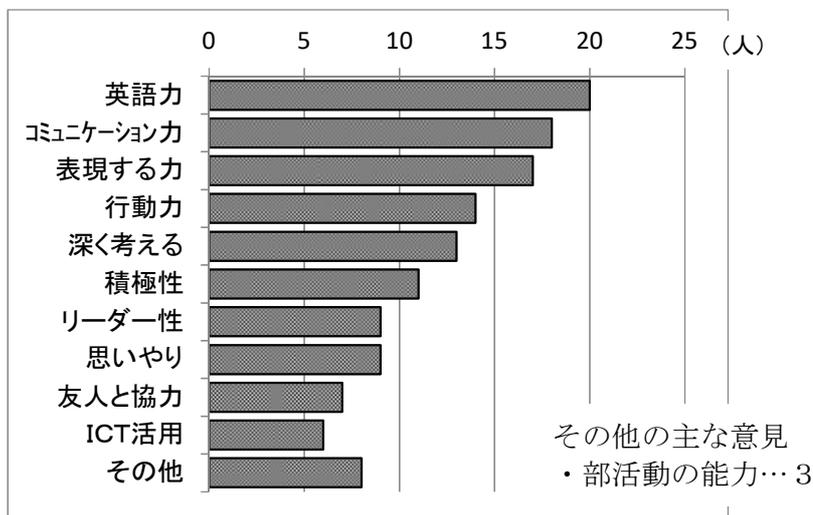
その他の主な意見
 ・部活動の能力…3

Q10. これからの高校生活で、更に「身につけたい」、「力を伸ばしたい」と思うものは何ですか。あてはまるものに○をつけてください（複数可）

- ①物事を深く考えること
- ②友達と協力して取り組むこと
- ③自分の考えを上手に表現すること
- ④ICTを活用すること
- ⑤英語力
- ⑥コミュニケーション力
- ⑦行動力
- ⑧積極性
- ⑨リーダー性
- ⑩他人を思いやる気持ち
- ⑪その他

(人)

	身につけたい	2年
⑤	英語力	20
⑥	コミュニケーション力	18
③	表現する力	17
⑦	行動力	14
①	深く考える	13
⑧	積極性	11
⑩	思いやり	9
⑨	リーダー性	9
②	友人と協力	7
④	ICT活用	6
⑪	その他	8

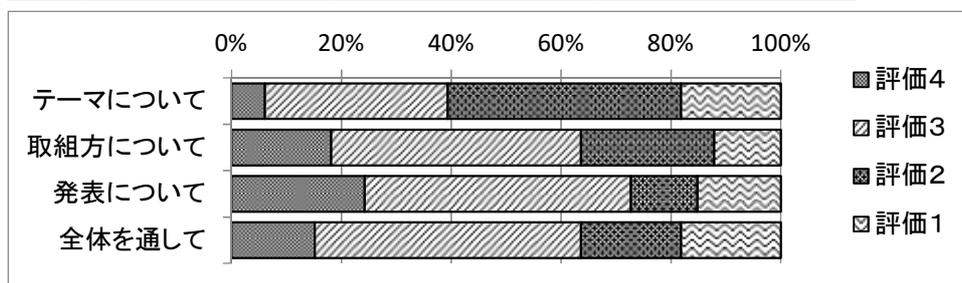


Q11. 総合探究について、次の質問に関してそれぞれあてはまるもの1つに○をつけてください。

- (1) 取り組んだテーマについて
(4段階評価：大変興味深かった(評価4)、興味深かった(評価3)、あまり興味が持てなかった(評価2)、別のテーマがよかった(評価1))
- (2) 取り組み方について
(4段階評価：積極的に取り組めた(評価4)、ある程度積極的に取り組めた(評価3)、あまり積極的に取り組めなかった(評価2)、積極的に取り組めなかった(評価1))
- (3) 発表について
(4段階評価：満足のいく発表であった(評価4)、ある程度満足のいく発表であった(評価3)、あまり満足のいく発表ではなかった(評価2)、満足のいく発表でなかった(評価1))
- (4) 全体を通して
(4段階評価：有意義な取り組みであった(評価4)、ある程度有意義な取り組みであった(評価3)、あまり有意義な取り組みではなかった(評価2)、有意義な取り組みではなかった(評価1))

(人)

	2年(高入生)	評価4	評価3	評価2	評価1
(1)	テーマについて	2	11	14	6
(2)	取組方について	6	15	8	4
(3)	発表について	8	16	4	5
(4)	全体を通して	5	16	6	6



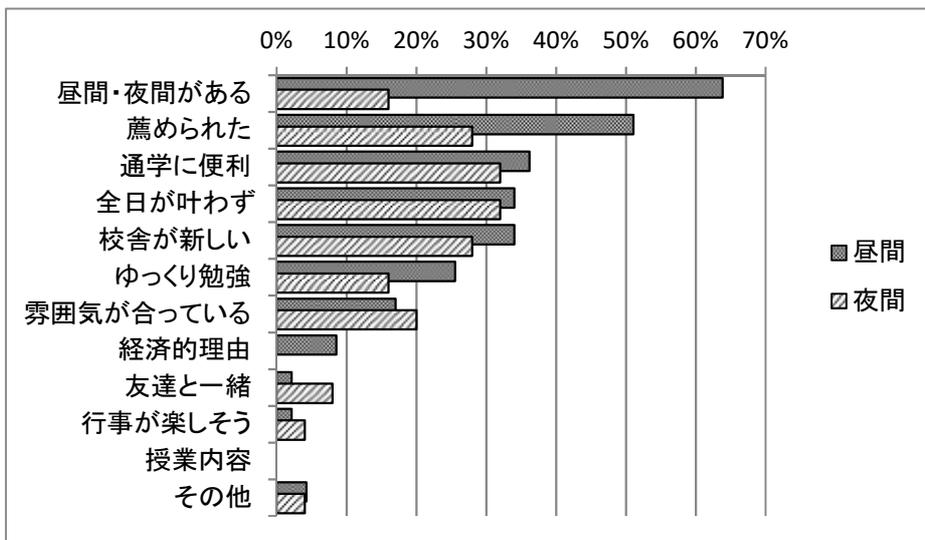
川崎高等学校定時制昼間部4年生(47名)、夜間部4年生(25名)へのアンケート

Q1. 川崎高校定時制を受検しようと思ったきっかけや理由は？(いくつでも)

- ① 雰囲気が自分に合っている
- ② 校舎が新しく、施設・設備が充実
- ③ 授業の内容で選んだ
- ④ 昼間部・夜間部がある
- ⑤ 行事が楽しそう
- ⑥ 通学に便利
- ⑦ 4年間かけてゆっくり勉強したかった
- ⑧ 経済的な理由のため定時制しかなかった
- ⑨ 親や中学校の先生にすすめられた
- ⑩ 友だちと一緒に進学したかった
- ⑪ 全日制の希望が叶わなかった
- ⑫ その他

(人)

志望理由		昼間	夜間
④	昼間・夜間がある	30	4
⑨	薦められた	24	7
⑥	通学に便利	17	8
⑪	全日制の希望が叶わなかった	16	8
②	校舎が新しい	16	7
⑦	ゆっくり勉強	12	4
①	雰囲気が合っている	8	5
⑧	経済的理由	4	0
⑩	友達と一緒に	1	2
⑤	行事が楽しそう	1	1
③	授業内容	0	0
⑫	その他	2	1



Q 2-1 昼間部の人に聞きます、昼間部に入学した理由は？（いくつでも）

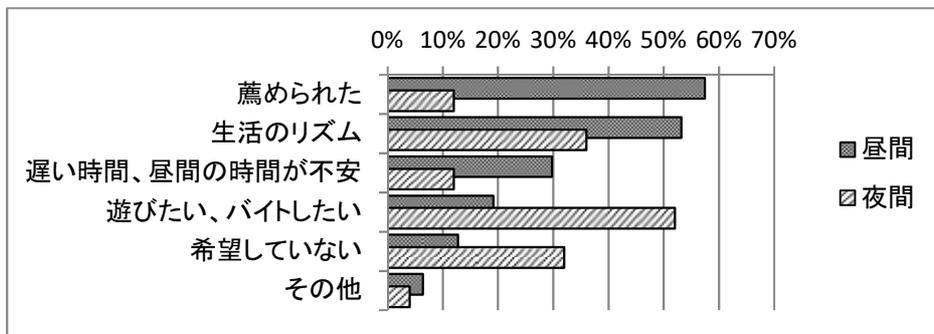
- ①生活のリズムを考えて
- ②下校時刻が遅いのは不安だから
- ③放課後、友だちと遊べるから
- ④親や中学校の先生にすすめられたから
- ⑤特に希望していなかった
- ⑥その他

Q 2-2 夜間部の人に聞きます、夜間部に入学した理由は？（いくつでも）

- ①生活のリズムを考えて
- ②昼間に出るのが好きじゃないから
- ③昼間、アルバイト（仕事）するから
- ④親や中学校の先生にすすめられたから
- ⑤特に希望していなかった
- ⑥その他

(人)

	昼間部、夜間部への理由	昼間	夜間
④	薦められた	27	3
①	生活のリズム	25	9
②	遅い時間、昼間の時間が不安	14	3
③	遊びたい、バイトしたい	9	13
⑤	希望していない	6	8
⑥	その他	3	1

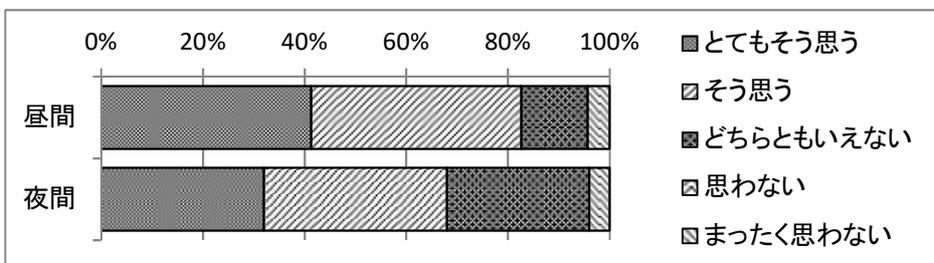


Q 3. 川崎高校定時制に入学して良かったと思いますか？

(5段階評価：とてもそう思う、どちらかといえばそう思う、どちらともいえない、あまりそう思わない、まったくそう思わない) その理由

(人)

	入学してよかったと思う	昼間	夜間
5	とてもそう思う	19	8
4	そう思う	19	9
3	どちらともいえない	6	7
2	思わない	0	0
1	まったく思わない	2	1



「とてもそう思う」、「そう思う」の主な理由

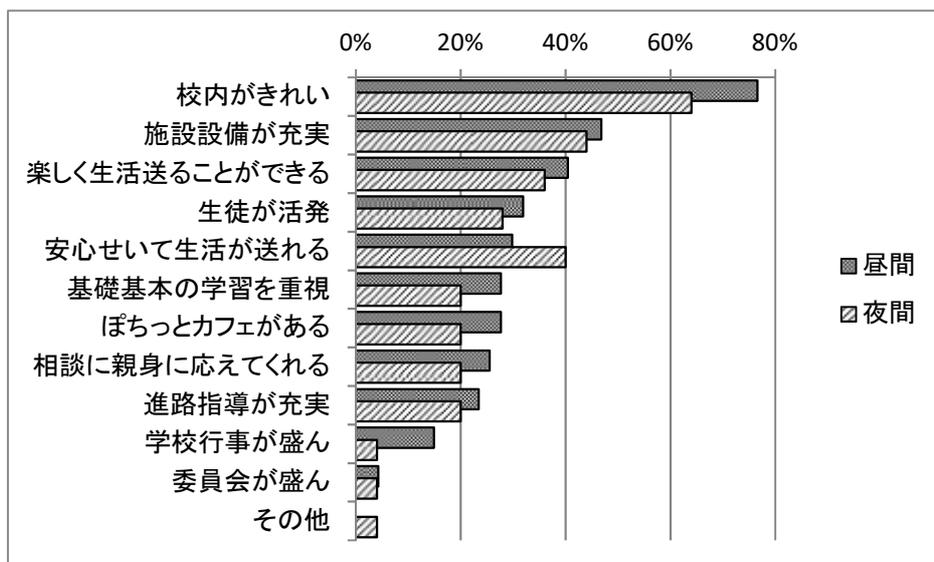
	昼間部	夜間部	(人)
生活のリズム	6	0	
友達との出会い	5	3	
先生との出会い	5	1	

Q 4. 川崎高校定時制はどのような特色をもっている学校だと思いますか？ (いくつでも)

- ①生徒が活発でのびのびとしている
- ②施設・設備が充実している
- ③校内がきれいである
- ④基礎・基本の学習を重視している
- ⑤学校行事が盛んである
- ⑥委員会活動が盛んである
- ⑦楽しく学校生活を送ることができる
- ⑧安心して学校生活を送ることができる
- ⑨進路指導が充実している
- ⑩相談や悩みに親身になって応えてくれる
- ⑪ぼちっとカフェがある
- ⑫その他

(人)

	定時制の特色	昼間	夜間
③	校内がきれい	36	16
②	施設設備が充実	22	11
⑦	楽しく生活送ることができる	19	9
①	生徒が活発	15	7
⑧	安心して生活が送れる	14	10
④	基礎基本の学習を重視	13	5
⑪	ぼちっとカフェがある	13	5
⑩	相談に親身に応えてくれる	12	5
⑨	進路指導が充実	11	5
⑤	学校行事が盛ん	7	1
⑥	委員会が盛ん	2	1
⑫	その他	0	1

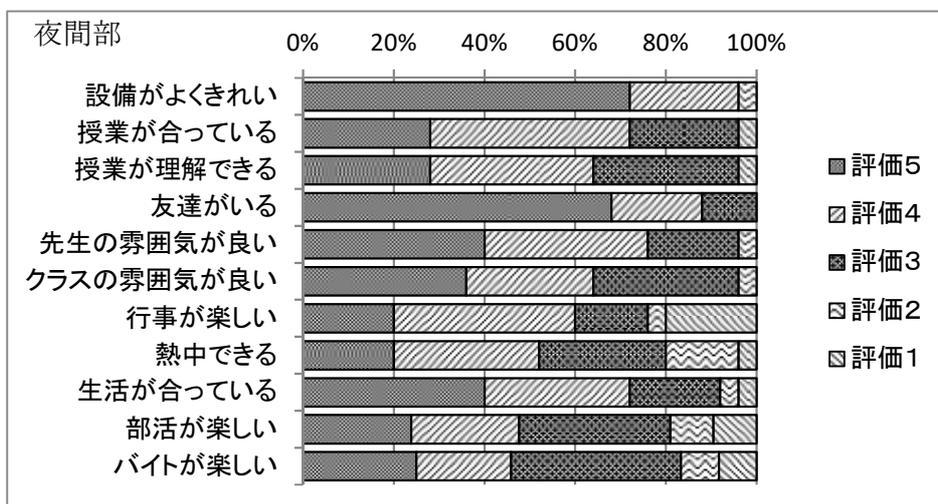
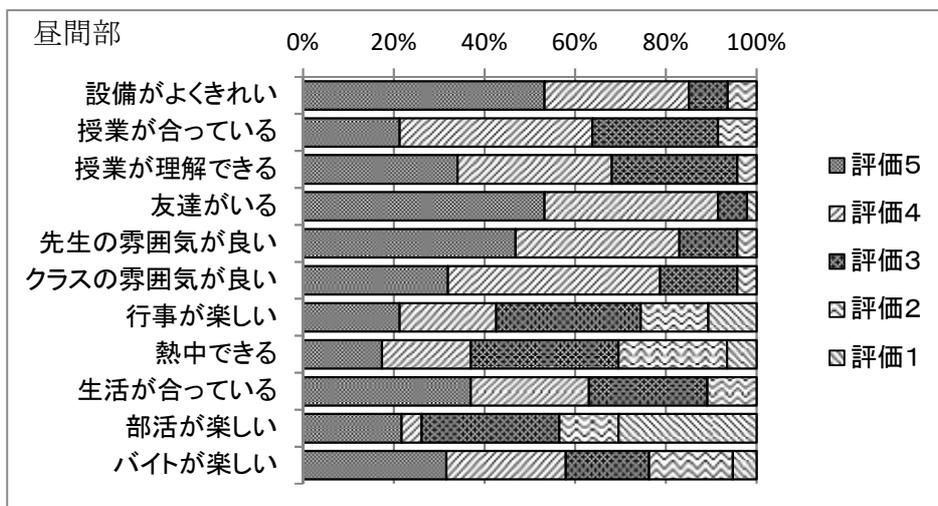


Q 5. 次のことについて、5段階のどれにあてはまりますか？ (⑩、⑪はやっている人のみ)
 (5段階評価：とてもそう思う、どちらかといえばそう思う、どちらともいえない、あまりそう思わない、まったくそう思わない)

- ①校舎の設備がよく、きれい
- ②授業内容が自分にあっている
- ③授業内容がよく理解できる
- ④仲の良い友達がいる
- ⑤先生方の雰囲気が良い
- ⑥クラスの雰囲気がよい
- ⑦行事が楽しい
- ⑧高校生活に熱中できている
- ⑨生活リズムに合っている
- ⑩部活が楽しい
- ⑪アルバイト(仕事)が楽しい

(人)

		昼間部 評価					夜間部 評価				
		5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
①	設備がよくきれい	25	15	4	3	0	18	6	0	1	0
②	授業が合っている	10	20	13	4	0	7	11	6	0	1
③	授業が理解できる	16	16	13	2	0	7	9	8	0	1
④	仲の良い友達がいる	25	18	3	0	1	17	5	3	0	0
⑤	先生方の雰囲気が良い	22	17	6	2	0	10	9	5	1	0
⑥	クラスの雰囲気が良い	15	22	8	2	0	9	7	8	1	0
⑦	行事が楽しい	10	10	15	7	5	5	10	4	1	5
⑧	熱中できる	8	9	15	11	3	5	8	7	4	1
⑨	生活が合っている	17	12	12	5	0	10	8	5	1	1
⑩	部活が楽しい	5	1	7	3	7	5	5	7	2	2
⑪	バイトが楽しい	12	10	7	7	2	6	5	9	2	2



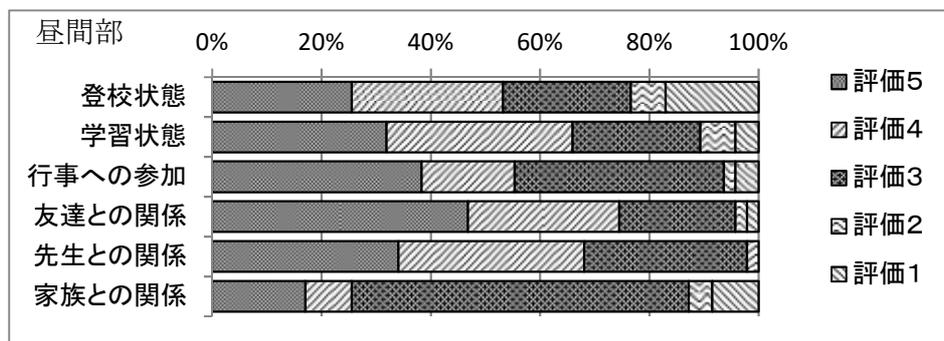
Q 6. 次のことについて、川崎高校入学前（入学当初）と現在を比べて、どのように変化しましたか？

（5段階評価：良くなった（評価5）、少し良くなった（評価4）、変わらない（評価3）、少し悪くなった（評価2）、悪くなった（評価1））

- ①登校状態（遅刻・欠席など） ④友達との関係
- ②学習状態（勉強への理解度） ⑤先生との関係
- ③行事への参加状態 ⑥家族との関係

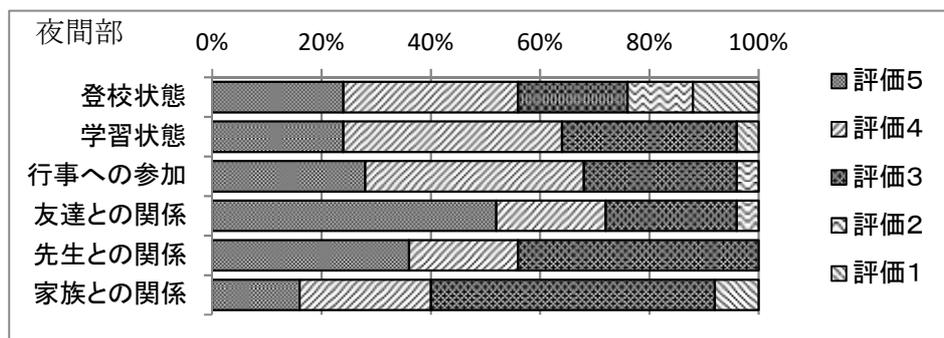
(人)

	昼間部	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
①	登校状態	12	13	11	3	8
②	学習状態	15	16	11	3	2
③	行事への参加	18	8	18	1	2
④	友達との関係	22	13	10	1	1
⑤	先生との関係	16	16	14	1	0
⑥	家族との関係	8	4	29	2	4



(人)

	夜間部	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
①	登校状態	6	8	5	3	3
②	学習状態	6	10	8	0	1
③	行事への参加	7	10	7	1	0
④	友達との関係	13	5	6	1	0
⑤	先生との関係	9	5	11	0	0
⑥	家族との関係	4	6	13	0	2

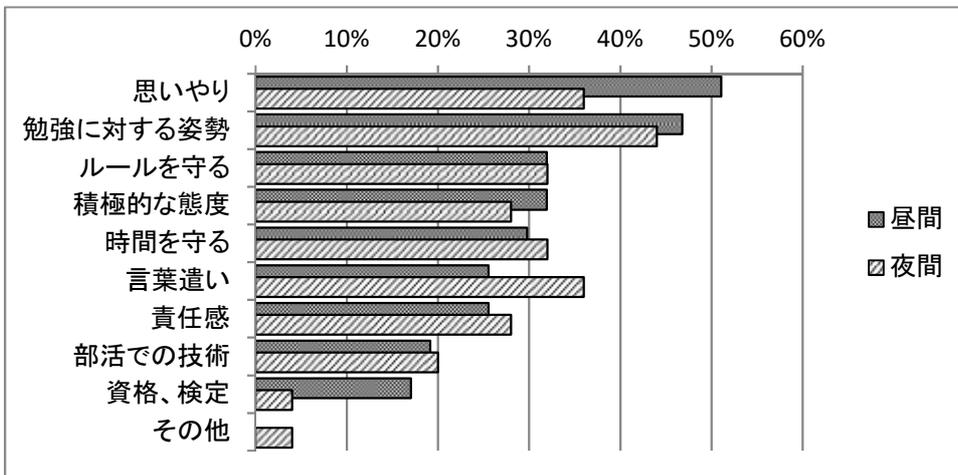


Q 7. 川崎高校に入学して身につけたことは何ですか？（いくつでも）

- ①勉強に対する姿勢や態度
- ②言葉づかい
- ③友だちへの思いやり
- ④時間を守る
- ⑤ルールを守ること
- ⑥積極的な姿勢や態度
- ⑦責任感
- ⑧部活動などでの技術
- ⑨検定を受け、資格を取得
- ⑩その他

(人)

	回答	昼間	夜間
③	思いやり	24	9
①	勉強に対する姿勢	22	11
⑤	ルールを守る	15	8
⑥	積極的な態度	15	7
④	時間を守る	14	8
②	言葉遣い	12	9
⑦	責任感	12	7
⑧	部活での技術	9	5
⑨	資格、検定	8	1
⑩	その他	0	1



Q 8. 入学当初の進路希望と、現在の進路状況（希望も含む）を教えてください。

（入学当初と現在にそれぞれ1つ ○ をつけてください）

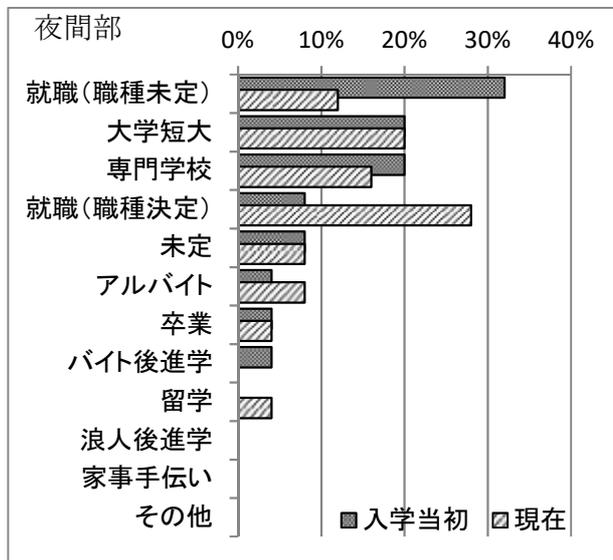
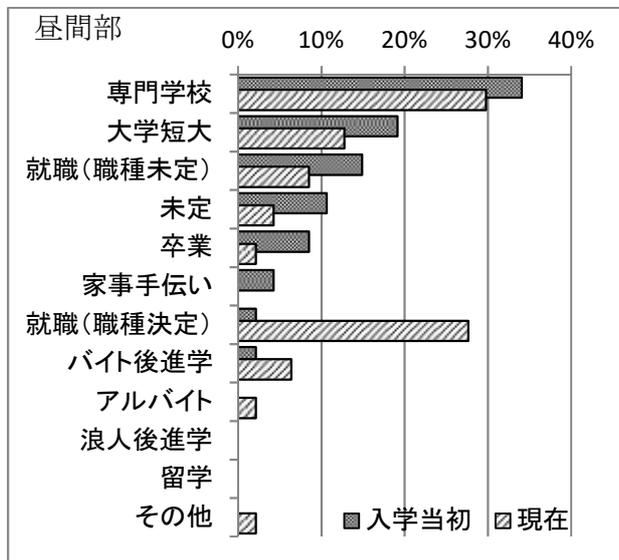
- | | |
|-------------------|------------|
| ①大学・短大進学 | ⑦就職（職種は未定） |
| ②専門学校進学 | ⑧アルバイト |
| ③浪人して進学 | ⑨家事手伝い |
| ④アルバイトをしてお金を貯めて進学 | ⑩卒業できればよい |
| ⑤留学 | ⑪未定 |
| ⑥就職（職種も決めている） | ⑫その他 |

(人)

	昼間部	入学当初	現在
②	専門学校	16	14
①	大学短大	9	6
⑦	就職（職種未定）	7	4
⑪	未定	5	2
⑩	卒業	4	1
⑨	家事手伝い	2	0
⑥	就職（職種決定）	1	13
④	バイト後進学	1	3
⑧	アルバイト	0	1
③	浪人後進学	0	0
⑤	留学	0	0
⑫	その他	0	1

(人)

	夜間部	入学当初	現在
①	大学短大	5	5
⑦	就職（職種未定）	8	3
②	専門学校	5	4
⑥	就職（職種決定）	2	7
⑪	未定	2	2
④	バイト後進学	1	0
⑧	アルバイト	1	2
⑩	卒業	1	1
③	浪人後進学	0	0
⑤	留学	0	1
⑨	家事手伝い	0	0
⑫	その他	0	0



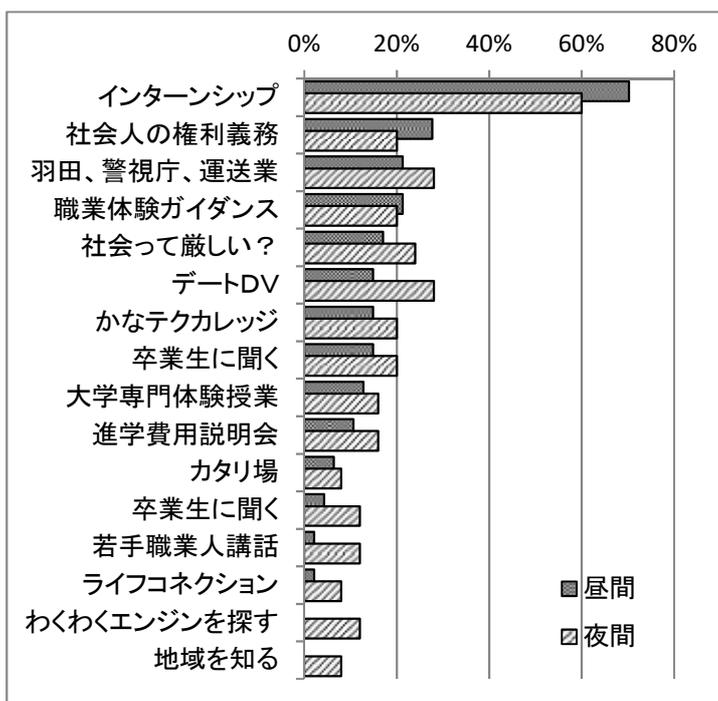
Q9. 川崎高校のキャリアプログラムについて充実していたと思うものを教えてください。

(いくつでも)

- ①卒業生に聞く「川高定時制の過ごし方」(1年)
- ②地域支援者講演会「地域を知る」(1年)
- ③校外体験学習「かなテクカレッジ」(1年)
- ④カタリ場(1年)
- ⑤職業体験ガイダンス(さんぼう)(2年)
- ⑥若手職業人講話「職業選択肢を広げる」(2年)
- ⑦校外体験学習「大学・専門学校体験授業」(2年)
- ⑧「わくわくエンジンを探す」(3年)
- ⑨「インターンシップ」(3年)
- ⑩校外学習「羽田空港・警視庁・運送業者」(3年)
- ⑪ライフコネクション(育て上げネット)(3年)
- ⑫卒業生に聞く「進路活動の心構え」(4年)
- ⑬講演「社会って厳しい?甘い?」(4年)
- ⑭デートDV防止教室(4年)
- ⑮講演「社会人の権利、義務」(4年)
- ⑯進学費用説明会(4年)

(人)

	キャリアプログラム	昼間	夜間
⑨	インターンシップ	33	15
⑮	社会人の権利義務	13	5
⑩	羽田、警視庁、運送業	10	7
⑤	職業体験ガイダンス	10	5
⑬	社会って厳しい?	8	6
⑭	デートDV	7	7
③	かなテクカレッジ	7	5
⑫	卒業生に聞く	7	5
⑦	大学専門体験授業	6	4
⑯	進学費用説明会	5	4
④	カタリ場	3	2
①	卒業生に聞く	2	3
⑥	若手職業人講話	1	3
⑪	ライフコネクション	1	2
⑧	わくわくエンジンを探す	0	3
②	地域を知る	0	2



【参考：用語解説】

	キャリアプログラム	概要
③	校外体験学習「かなテクカレッジ」(1年)	職業技術校への体験学習
④	カタリ場(1年)	NPO 法人カタリバによる、主体的に一步を踏み出すことができることを目的としたプログラム
⑤	職業体験ガイダンス(さんぼう)(2年)	学校に多くの専門学校や企業に来ていただき、体験学習を実施する。生徒は校内で複数の体験をすることができる。
⑧	「わくわくエンジンを探す」(3年)	NPO 法人キーパーソン 21 による、自分が何に一生懸命になれるかを探すプログラム
⑩	校外学習「警視庁・運送業者・航空会社」(3年)	興味のある場所を選択しての事業所見学
⑪	ライフコネクション(育て上げネット)(3年)	若者サポートステーションによる、生きていくために必要となるお金や物の価値、雇用形態などを学ぶプログラム
⑬	講演「社会って厳しい?甘い?」(4年)	企業社長による講演
⑭	デートDV防止教室(4年)	すくらむ21によるデートDV防止教室
⑮	講演「社会人の権利、義務」(4年)	弁護士による講演
⑯	進学費用説明会(4年)	生徒・保護者対象の本校教諭による説明会

Q10. 川崎高校での4年間を振り返って、充実していたと思うものに ○ をつけてください。
(いくつでも)

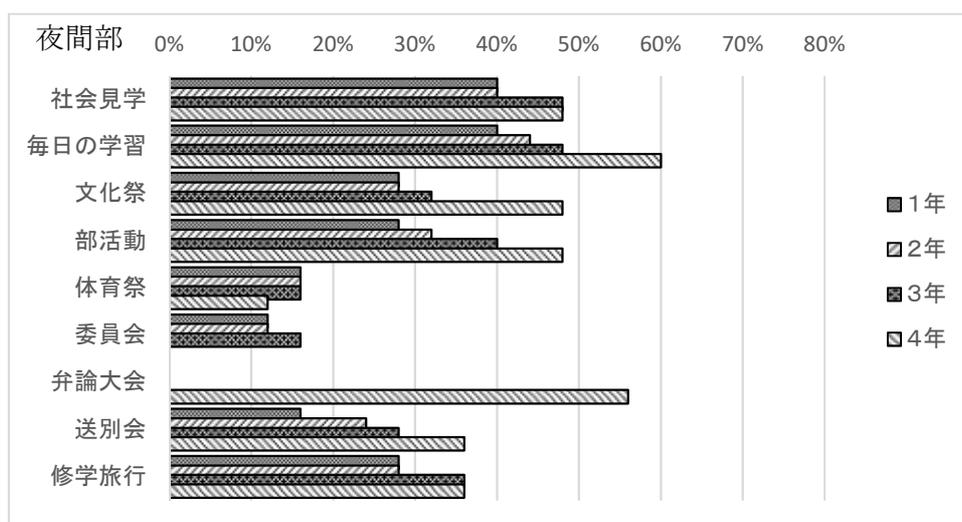
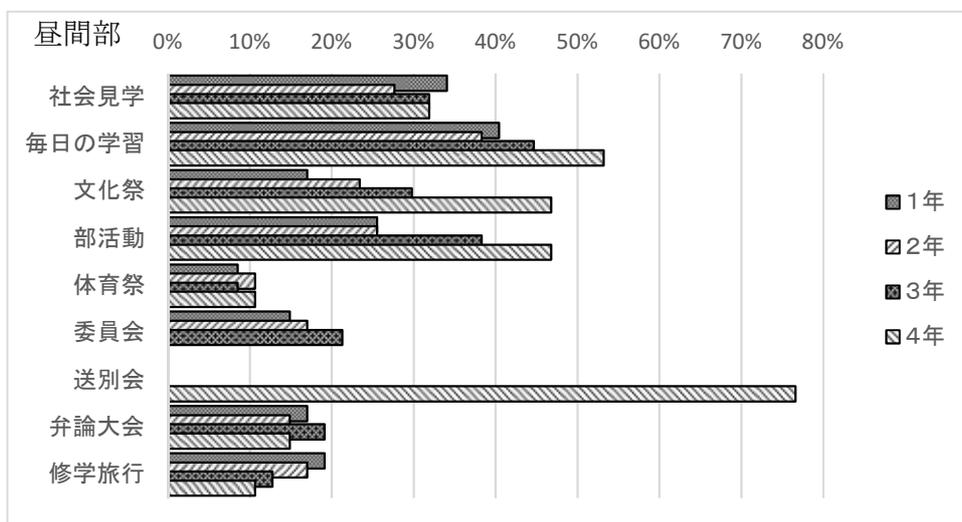
- ①毎日の学習 ③体育祭 ⑤弁論大会 ⑦修学旅行 ⑨部活動
②社会見学 ④文化祭 ⑥送別会 ⑧委員会活動

(人)

	昼間部	1年	2年	3年	4年
②	社会見学	19	18	21	25
①	毎日の学習	16	13	15	15
④	文化祭	12	12	18	22
⑨	部活動	9	8	6	5
③	体育祭	8	11	14	22
⑧	委員会	8	7	9	7
⑥	送別会	7	8	10	0
⑤	弁論大会	4	5	4	5
⑦	修学旅行	0	0	0	36

(人)

	夜間部	1年	2年	3年	4年
②	社会見学	10	11	12	15
①	毎日の学習	10	10	12	12
④	文化祭	7	8	10	12
⑨	部活動	7	7	9	9
③	体育祭	7	7	8	12
⑧	委員会	4	6	7	9
⑤	弁論大会	4	4	4	3
⑥	送別会	3	3	4	0
⑦	修学旅行	0	0	0	14

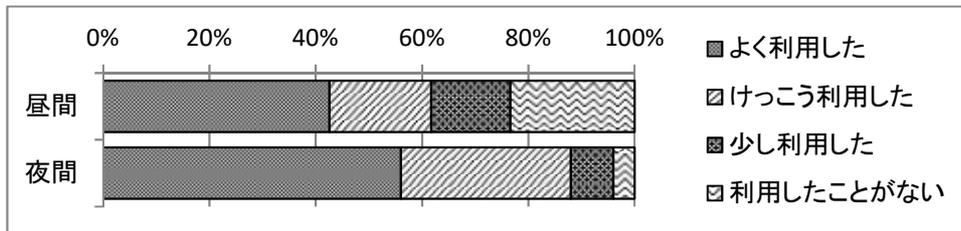


Q11. 「ぼちっとカフェ」について教えてください。

(1) どのくらい利用しましたか？

(4段階評価：よく利用した、けっこう利用した、少し利用した、利用したことがない)

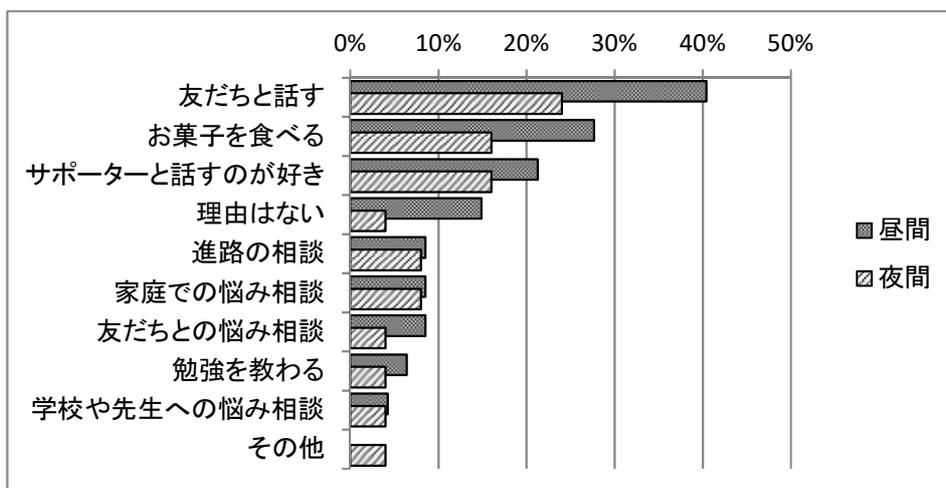
利用について	昼間	夜間	(人)
よく利用した	20	14	
けっこう利用した	9	8	
少し利用した	7	2	
利用したことがない	11	1	



(2) どのような目的で利用しましたか？ (いくつでも)

- ① 友だちと話すためや遊ぶため
- ② お菓子を食べるため
- ③ 勉強を教わるため
- ④ 進路の相談をするため
- ⑤ 友だちとの悩みを相談するため
- ⑥ 家庭での悩みを相談するため
- ⑦ 学校や先生への悩みを相談するため
- ⑧ サポーターの人と話すのが好きだから
- ⑨ 特に理由はない
- ⑩ その他

	回答	昼間	夜間	(人)
①	友だちと話す	19	6	
②	お菓子を食べる	13	4	
⑧	サポーターと話すのが好き	10	4	
⑨	理由はない	7	1	
④	進路の相談	4	2	
⑥	家庭での悩み相談	4	2	
⑤	友だちとの悩み相談	4	1	
③	勉強を教わる	3	1	
⑦	学校や先生への悩み相談	2	1	
⑩	その他	0	1	



市立高等学校改革推進計画

第2次計画

川崎市教育委員会事務局学校教育部指導課

〒210-0004

川崎市川崎区宮本町6番地 明治安田生命川崎ビル4階

電話：044-200-3067 FAX：044-200-2853